

Design the Future.

日本の未来を一緒に描いてみませんか。



先輩職員からのメッセージ



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

We design the Future.

日本の未来を一緒に描いてみませんか。

先輩職員からのメッセージ

TABLE OF CONTENTS

地方自治行政

地方行革のあり方を求めて	自治行政局合併推進課行政体制整備室 体制整備係長 併任 管理改善係長	宗 有隆 2
総務省を活躍の場に!	自治行政局公務員部福利課安全厚生推進室	芳賀 玲子 3
私の経験を踏まえて	自治財政局交付税課企画係長	荻野 洋平 4
フィールドの広い総務省	自治財政局公営企業課公営企業経営企画室 交通事業係長 併任 エネルギー事業係長	小池 智広 5
地方税ってどんなもの?	自治税務局企画課	館野 圭悟 6
4年間で経験したこと	消防庁消防・救急課	鵜飼 陽介 7

情報通信・放送・郵政行政

ICTの未来を見つめて	情報通信政策局情報通信政策課 情報セキュリティ対策室推進係長	松元 昭博 8
情報通信行政マンとして	情報通信政策局衛星放送課	松元 信貴 9
激動を楽しめる方、求ム。	総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課	飯島 要介 10
ここで出会えたあなたに	総合通信基盤局電波部電波環境課	鈴木 俊明 11
日本の技術を世界に	総合通信基盤局国際部国際協力課課長補佐	谷内 正登 12
『総務省』の枠を超えた視点で	郵政行政局郵便課企画調整係長	柳谷 昭夫 13

行政制度の管理運営

多種多様	人事・恩給局公務員高齢対策課企画係	大森 千尋 14
総務省で働いて思うこと	行政管理局行政情報システム企画課 情報システム管理室	鈴木 由香里 15
私の仕事は行政のお医者さん	行政評価局評価監視官	松本 順 16
総務省で経験できること	行政評価局評価監視官付	田原 真人 17
社会に数字からアプローチする仕事	統計局統計調査部消費統計課審査発表係	原嶋 美緒 18
「経済センサス」って何??	統計局統計調査部経済基本構造統計課 調整係長 併任 企画係長	高野 義幸 19

地方支分部局

名は体を表すと申しますが……	関東管区行政評価局第一部評価監視調査官	町田 弘之 20
国民に伝える力を求ム。	福井行政評価事務所行政相談課行政相談官	宮原 和彦 21
国民に最も近い組織で働きませんか!	岡山行政評価事務所長	高橋 潤一 22
変化に富んだ仕事をしてみませんか	沖縄行政評価事務所評価監視官付	大城 沙織 23
北の大地北海道から	北海道総合通信局情報通信部放送課長	石原 誠一 24
総合通信局にて	関東総合通信局情報通信部情報通信振興課	佐藤 崇之 25
「意外」と身近な——「総合通信局」	中国総合通信局放送部放送課 (デジタル放送普及担当)	半明 忠幸 26

地方自治体・海外・出向・留学

現場力	各務原市都市戦略部企画財政総室 財政課長	小鍋 泰弘 27
北の国から'08	北海道企画振興部地域振興・計画局市町村課	岡本 理恵 28
一緒に魅力発掘しませんか?	岐阜県総合企画部市町村課	瀬川 紀子 29
4年目の夏に思うこと	鹿児島県総務部市町村課	篠田 恵二 30
黄金のパゴダの国から	外務省在ミャンマー日本国大使館二等書記官	市川 憲史 31
バイクの波の中で	外務省在ベトナム日本国大使館二等書記官	景山 真澄 32
ニューヨークから	自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐	井上 秀典 33
総務省を目指す皆さんへ	独立行政法人統計センター製表部 マネージャー付上級製表職	村本 雅昭 34
統計という仕事	独立行政法人統計センター製表部審査課	泉 良子 35
総務省という選択	公営企業金融公庫経理部資金課資金係長 兼債券第一係長兼債券第二係長	赤坂 貴幸 36
ビバ・ハポン、ビバ・メヒコ	日墨交換留学生(グアダハラ大学)	北山 悦子 37

総務省の組織

38

Q & A

40

採用情報

41

■所属、職名は平成20年3月末現在のものです。

総務省を活躍の場に!



同期とランチ(筆者右から2人目)

芳賀 玲子

自治行政局公務員部福利課安全厚生推進室

PROFILE

平成19年4月 総務省採用
 総務省自治行政局選挙部選挙課
 平成20年4月 現職

地方公務員のために

私は今、自治行政局の安全厚生推進室及び福利課というところで地方公務員の安全衛生や福利厚生に関する仕事をしています。少し具体的に言うと、安全衛生の分野においては、社会問題化しているうつ病などの精神的な疾患や過重労働による疾病などを未然に防止するために、地方公務員の職場の安全衛生の確保や意識の向上などを呼びかけているところです。また、福利厚生の分野においては、少し前にも新聞等で話題に上がった地方公務員の福利厚生に対する不適切な公費支出について、その実態の調査を行い、住民の理解が得られるものとなるように各自自治体に現状の公表と改善を求めているところです。

懸命に働く地方公務員のために、また地方公務員と住民の距離をより近づけるために、これらの仕事は地方自治を担う総務省だからこそできる、とても大切な業務だと思っています。

選挙のはなし

と、入省2年目現在の業務をさっさとご紹介しましたが、少し前までは私はこれとは全く違う業務を行っていました。

プロフィールにもあるように、採用されてから1年間は選挙課という部署で公職選挙法に関する法解釈の説明や、選挙制度に関する意見・要望等をもとにした制度の企画立案に携わっていました。また、昨年は参議院選挙が行われた年でもありました。当時まだ入省してから3~4ヶ月という時期でしたが、幸運なことにその貴重な選挙執行の現場も経験することができました。

選挙は総務省の中でも特殊な業務です。「法律の解釈を行う」「選挙を執行する」と言葉では簡単に聞こえますが、法律に規定されていることを扱うということは、当然ながら一切間違いが

許されないということです。そんな緊張の場面が連続する日々には身を置き、国家公務員という身分がいかに重責を担っているかを改めて考えさせられる1年でした。

最後に

私はわずか二年足らずの間に全く毛色の違う2つの部署を経験することができました。しかし、これらは総務省の中でもまだまだ一部に過ぎません。他にも地方自治に関する様々な制度を各部署で所管しています。さらに地方に出向して現場の感覚を肌で味わう機会も与えられます。地方の実情を知り、それを仕事に反映させる。それをできるのが総務省です。

私は、国と地方をもっと近いものにしたいと思い総務省の門を叩きました。私自身まだまだ未熟者ですので、今後もいろいろな角度から地方の実情を学び、いつかそれを仕事にフィードバックできればと思っています。

つたない説明ですが、少しでもみなさんの仕事選びのお役に立てれば幸いです。地方自治に興味をもっている方、是非とも総務省を訪ねてみてください。熱意あるみなさんとお会いするのを楽しみにしています。



平成19年参院選
 公示日リハーサル

地方行革のあり方を求めて



執務室にて

宗 有隆

自治行政局合併推進課行政体制整備室
 体制整備係長 兼任 管理改善係長

PROFILE

平成14年 4月 総務省採用
 総務省自治行政局選挙部管理課
 平成16年 4月 青森県企画政策部市町村振興課
 平成17年10月 総務省自治行政局公務員部福利課
 平成19年 4月 総務省自治行政局合併推進課
 行政体制整備室
 平成20年 4月 現職

行財政の現場を体感することができるのも、この職場の大きな魅力です。私がお世話になった青森県は、豊かな自然や風土を持ちながらも、財政状況は極めて厳しい状況にあります。平日は出張やヒアリングを通じて市町村の職員と地域の実情・課題について議論し、休日はドライブやアウトドアを兼ねて各市町村を訪ねました。そこで培った経験や人とのつながりは、仕事が変わった今でも貴重な糧として生きています。

皆さんもパンフレットを手にとりながら、総務省の仕事の幅広さに驚いているかもしれません。私も最初はほとんどの用語や制度がわからず、今でも勉強の毎日ですが、大切なことは常に勉強を怠らず、「地方のために何か役に立ちたい」という前向きな意思を持ち続けることだと思います。

そして、省庁の中であって、国地方双方の視点を養いながら、地方制度のグランドデザインを描くこの総務省に少しでも関心があれば、ぜひ私たちに声を掛けてください。



八甲田山頂にて

皆さん、こんにちは。平成14年採用の宗と申します。私が所属している自治行政局行政体制整備室では、地方公共団体の行政改革(地方行革)の推進などを主な仕事としています。

人口減少時代の到来、国地方を通じた厳しい財政状況、住民ニーズの高度化・多様化など、地方公共団体の行財政運営を取り巻く環境は、絶えず変容し、厳しさを増しています。

このような状況の中で、各団体が新たな視点に立って不断に行政改革に取り組むため、行政体制整備室では、目標の数値化や分かりやすい指標を用いながら、事務・事業の見直し、民間委託等の推進などの具体的な取組を示した行政改革に関するプラン策定を積極的に支援するとともに、その進捗状況に関する全国的な調査・公表を行っています。これにより、地方行革に関する進捗状況について、団体間での比較を容易にし、また国民に対する説明責任を果たすことにも役立てています。

その他にも、各種事例の調査研究や地域住民と意見交換の機会などを通じて、わが国の社会経済情勢に応じた地方行革のあり方について、有益となる情報を発信し、簡素で効率的・効果的な地方行政体制の整備を支援する役割を担っています。

職場の雰囲気は、少人数である一方で、幅広い制度や施策を所管しているため、一人ひとりが責任ある仕事を任されており、常に活気に満ちています。個々の能力を大切にしながら、職務遂行を通して実務ノウハウを身に付け、制度改正などの有事の際には、皆が一丸となって互いを支えながら仕事を進める一種の家族的な雰囲気が、この職場の魅力であるといえます。

また、東京で企画立案に関わるだけでなく、出向によって地方

私の経験を踏まえて



職場にて

荻野 洋平

自治財政局交付税課企画係長

PROFILE

平成13年 4月 総務省採用
総務省自治大学校庶務課
平成14年 1月 総務省自治行政局地域振興課
過疎対策室
平成15年 4月 和歌山県総務部総務管理局市町村課
平成16年10月 総務省自治行政局選挙部管理課
平成18年 4月 総務省自治財政局交付税課
平成19年 4月 現職

官庁訪問お疲れ様です。

皆さんはどんな思いで国家公務員を目指されたのでしょうか。すべてはこの問いにつけるのではないのでしょうか。何を思い、何をしたいか、国家公務員となるのか、そしてその中でなぜ総務省を目指すのか。せっかくだと読んでいただいているので、頭の整理をする上で一つの参考になればと思います。

総務省は平成13年の省庁再編により、当時の総務庁、自治省、郵政省の3省庁が統合して誕生したために、非常に幅広い業務を行っています。そして、省内の課室だけではなく、地方公共団体で勤務する機会が与えられるのも、総務省の特徴の1つであると思います。

私も和歌山県庁で勤務した経験があります。皆さんは和歌山県というどのようなイメージをお持ちでしょうか。最近では、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、観光行政にも力を入れています。歴史の勉強で出てくる金剛峰寺がある「高野山」や海水浴や温泉で有名な「白浜」がメジャーなところかと思えます。着任するまでは、恥ずかしながら和歌山県に足を踏み入れたこともなく、どういうところなのかあまり知識もなく、多少不安に思ったこともありましたが、行ってみると、非常におもしろい人達に囲まれ、充実した1年半を送ったと思います。和歌山県で出会った人達、経験、すべてが今の自分にとってかけがえのない思い出となっています。

現在では、自治財政局交付税課で勤務しております。ここ数年は特に「交付税」という言葉が新聞やニュースで報道される機会が多くなっているので、聞いたことがある方も多いのではないかと思います。交付税とは、簡単に言いますと、各地方公共団体が行わなければならない行政サービスに対し、当該団体の税金などの自主財源だけでは歳入が不足する分について、その足りない分を交付税として交付する仕組みになっています。この

交付税の各地方公共団体への交付額を決める(算定する)のが交付税課の仕事です。ここ数年、いわゆる三位一体の改革、新型交付税、頑張る地方応援プログラムなどこの交付税の総額や算定方法が大きく改正され国会審議においても非常に注目されています。このような地方公共団体に大きな影響を与える国の政策に携わる場合において、上述した和歌山県での勤務経験が非常に役立っていると実感します。

以上、簡単ですが、私のこれまでの経験について申し上げました。これが何か皆さんのお役に立てたら幸いです。そして、皆さんと一緒に働く日が来ることを願っています。

フィールドの広い総務省



上司に説明を行う筆者(左)

小池 智広

自治財政局公営企業課公営企業経営企画室
交通事業係長 併任 エネルギー事業係長

PROFILE

平成14年 4月 総務省採用
総務省自治行政局地域振興課
平成15年10月 長崎県地域振興部市町村課
平成17年 4月 公営企業金融公庫総務部企画課
平成19年 4月 総務省自治財政局公営企業課
公営企業経営企画室
平成20年 4月 現職

公営企業とは

早速ですが、「公営企業」ってご存じですか？ 地方公共団体が経営する企業のことです。地方公共団体はみなさんが一般的に思われている教育、福祉、消防などの行政運営をする他にも、水の供給、公共交通の確保、汚水の処理、医療の確保などの公共サービスを企業という形態で行っております。このことを「公営企業」といい、民間企業と同じように利用料金をもって事業運営を行う「企業性」と公共の福祉を増進する「公共性」という2つの特徴があります。

私の現在の担当業務は、公営企業のうちの交通事業(地下鉄・バス等)及びエネルギー事業(電気・ガス等)に関する企画立案や経営助言です。たとえば地下鉄を建設するには膨大な資金が必要です。資金の一部は地方債として借金をしますが、その財政制度等の企画立案を行っております。また、経営助言につきましては、地方公共団体からの問い合わせに対して、分かりやすい説明を心がけております。これらの業務を通じて公営企業の発展、さらには利用する住民の方々の生活向上に役立つことができたいと思います。

地方勤務

総務省職員には、地方自治の感覚を現場で感じることができるよう地方勤務の機会があります。私は長崎県庁で1年6ヶ月間過ごしました。その当時は、「市町村合併」と「三位一体改革」という地方にとって大きな変革の時期でした。そうした中で県内市町村職員の方々と「地方が真に自立できる地方行財政制度とは？」について議論した記憶が深く残っております。このように最前線の現場の方々の声を肌で感じることができる地方勤務は本当に良い経験となりました。

また、私は生まれも育ちも東京ですので、長崎県を自分の「ふ

さと」と呼ぶとともに、県庁時代に出会った同僚と生涯の間になれたことを誇りに感じております。

最後に

私は総務省に入省してから、本省勤務、長崎県勤務、公営企業金融公庫勤務など多様な部署を経験してきました。その中で得られた総務省を一言で表してみると、「フィールドの広い総務省」となります。広いということは、それだけ自分の力を発揮できる可能性があるということです。その可能性を生かすかどうかは私も含めみなさんの努力次第ですが……。

このパンフレットを手にしているみなさんは、おそらく総務省も含め他の官庁も訪問されると思います。その時は、ぜひ実際に働いている先輩職員と積極的に話をし多くの情報を得て自分がやってみたい仕事と出会ってください。その出会ったところが総務省であってほしいと思いますし、一緒に「フィールドの広い総務省」というピッチに立つことを楽しみにしています。

長崎県庁時代の同僚たちと
長崎県内の教会にて
(筆者は上段左から2人目)

地方税ってどんなもの？



職場の仲間との記念撮影(筆者後列左から2人目)

舘野 圭悟

自治税務局企画課

PROFILE

平成15年4月 総務省採用
 総務省自治税務局企画課
 管理審査専門官付
 平成16年4月 総務省自治行政局地域振興課
 過疎対策室
 平成17年4月 山梨県総務部税務課
 平成19年4月 現職

地方税とは

今年は、ガソリンが安くなるかどうか、というニュースを毎日のように耳にしましたね。これは、ガソリンにかけられている税(揮発油税などです。)の暫定税率(本来の税率に上乘せられている部分)が、平成20年3月末で期限が切れることによって失効すると、1リットルあたり約25円安くなるといわれていたものです。実際、4月をむかえた時、暫定税率はいったん失効し、ガソリンの値段は下がりました。車をお持ちの方にとって、ガソリンの値段はとても身近な話題ですし、とても気になるところですね。誰だって、ものを買ってお金を払うなら安いほうがいいし、それは税金も同じことかもしれません。ただ、税金によって国・地方の行政が運営されていることを考えると、税金は安ければ安いほどよいのだと、単純に割り切れるものではないのです。みなさんは、税金についてどのようなイメージをお持ちですか。

私は、自治税務局というところで、地方税についての仕事をしています。ご紹介したガソリン税は、国に納める税金であり、他に所得税や法人税などがありますが、都道府県や市町村に納める税金を地方税といい、住民税や固定資産税、自動車税などがあります。

地方税は、都道府県や市町村に納めるものなので、総務省は国として課税をしたり、税を徴収したりすることは基本的にありません。自治税務局は、地方税の制度について、企画立案するところです。今年は、報道などにより、税の話をよく耳にしますが、実は毎年、税の制度は変わっています。私は、このような、日々状況が変化する、みなさんの生活に密着した税制という仕事にたずさわって、責任の重さや、やりがいの大きさを感じています。

総務省で働く

私は、総務省に入省して6年目になりますが、就職先を決める時、実をいうと、これをやりたい、という具体的なものははっきりあったわけではありませんでした。むしろ、社会人という今まで経験したことのないフィールドで、何が自分に向いているのかわからなかったため、できれば色々な経験のできそうなところに行きたかったというのが正直なところでした。

その点に関しては、総務省はズバリ当てはまると感じています。私は1年目は今と同じ自治税務局企画課で庶務を担当し、2年目は自治行政局の過疎対策室というところで、過疎地域の振興についての仕事をしました。3、4年目は山梨県庁の職員として、税務課で自動車税や県民税の担当をしていました。現在は自治税務局企画課に戻り、地方自治体が法律にない独自の税金を課することができる「法定外税制度」や、インターネットを活用して税申告等が可能となる「地方税の電子化」などを担当しています。たまたま、割と税関係の仕事が多いですが、こんな私の浅い経験でも、本当にたくさんの貴重な経験をさせていただきました。また、それらの仕事を通じて知り合うことができた方々には、今でも大変お世話になっており、多くの人と出会えることも、今後の自分にとって大きな財産になると思います。

自分に向いている仕事は何だろう、などとお悩みの方、ぜひ一度こちらに足を運んでみてはいかがでしょうか？

4年間で経験したこと



職場のメンバーと(筆者右端)

鶴飼 陽介

消防庁消防・救急課

PROFILE

平成16年 4月 総務省採用
 総務省自治大学校庶務課
 平成17年 4月 総務省自治財政局交付税課
 平成17年10月 福岡県地方課
 平成19年10月 現職

こんにちは。平成16年採用の鶴飼と申します。暑期中、官庁訪問本当にお疲れ様です。

私も5年前、真夏にスーツという理不尽さにくじけそうになりながら官庁街を歩き回りました。その反動か、今は冬でも半袖で勤務しております。

採用5年目の私では職務に対して何も語ることはできませんが、以下簡単に思うことを書かせていただきます。

これまでと現在の職場について

採用後、自治大学校において研修事務、自治財政局交付税課において普通交付税算定業務、平成17年10月から2年間は福岡県地方課で市町村の行財政分野の業務を広く経験させていただきました。

現在の職場である消防庁消防・救急課は、消防組織制度や消防職員制度の企画立案、地域の消防施設・設備の強化拡充等を所管しております。

近年、消防を取り巻く環境は急速に変化しており、消防はこの変化に的確に対応し、その力を十分発揮できる体制を整えていく責務があります。一方で、近年の消防財政は、多額の借入金を抱え厳しい状況にあり、消防が国民の要請に応じてその機能を適切に果たしていくためには、限られた財源を効率的かつ効果的に活用して、消防力の強化促進及び消防防災施設等の整備を計画的かつ着実に推進していくことが重要であります。

私のいる係の業務は、財政面での様々な企画立案によって、地域の消防施設・設備の強化拡充等を行うことです。消防は住民生活の根幹を成すものであり、強い責任感をもって業務に臨まなければなりません。まだまだ勉強の毎日ですが、勇猛な諸先輩方のアドバイスをいただきながらなんとか業務をこなしております。

総務省は、上記のとおりまだ採用後たったの4年間だけでもこれだけ多種多様な職務を経験させてもらえます。特に、地方勤務は、地方自治の現場で市町村の厳しい財政事情を目の当たりにすることができ、また、総務省の施策を客観的に眺めることができた非常に有意義な時間でした。そして職場の数だけ出会いがあり、苦楽を共にする中で築けた人間関係は私の一番の財産です。

皆さんへ

総務省の業務は決して楽なものではありませんが、皆さんの若さあふれるエネルギーを注ぐだけのやりがいや達成感には十分にあると思いますし、決して飽きることのない多様なフィールドと、魅力あふれる豊かな人材が皆さんを待っています。

官庁訪問は職員の生の声が聞ける非常に貴重な機会だと思います。時間が限られておりますが、多少やり過ぎなくらいどんな積極的に質問をぶつけてみてください。

志高き皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしております。最後まで読んでいただきありがとうございました。



出張先(姫路市)にて

ICTの未来を見つめて



総務省の正面にて Part1

松元 昭博

情報通信政策局情報通信政策課
情報セキュリティ対策室推進係長

PROFILE

- 平成11年4月 郵政省採用(技官)
- 平成11年7月 郵政省電気通信局電波部計画課
- 平成13年1月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課
- 平成14年8月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課
- 平成16年7月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室システム計画係長
- 平成19年7月 現職

私は、平成11年に郵政省に入省しましたが、早いもので10年目に入りました。入省後に配属された当初は多少の不安はありましたが、実際に業務に携わってみると、毎日のように学ぶことに出会い、新鮮な気持ちで充実した日々を過ごすようになっていきました。

情報通信行政

総務省では、様々な業務を行っておりますが、その中で情報通信という分野は、新しい技術やサービスが次々と生まれ、動きが大変激しく速い分野です。そのため、行政官としては、技術的な観点から常に情報を得て最新の知識を身に付けるとともに、政策への反映のために、幅広い視野やICT (Information and Communications Technology) 全体の発展・利便性向上等を念頭に置いたバランス感覚が必要です。

ICTと情報セキュリティ

私は現在、情報セキュリティ関係の業務に携わっています。わが国では、近年、ブロードバンドの普及等により、インターネットや携帯電話などのICTの利用が急速に進んだ結果、ICTは手軽で便利な手段として日常生活に欠かせない存在になっています。しかし、最近、ICTの利便性を逆手に取って悪用し、情報システムやネットワークに障害を与えたり、個人情報等を盗み出したり、といった行為が横行しています。代表的な例としては、コンピュータウイルスや不正アクセス、フィッシング、ボットネットなどで、それらによる被害も急増しています。特に怖いのは、ICT利用者が情報セキュリティ対策を怠っていると、自分自身が被害者になるだけでなく、気付かないうちに加害者に仕立てられ、他人に被

害を与えてしまう場合もあることです。これらを踏まえて、総務省では、複雑・巧妙化する情報セキュリティ脅威に対して、情報セキュリティ技術の研究開発やICT利用者への情報セキュリティ対策の必要性の周知・啓発を推進するとともに、内閣官房情報セキュリティセンター (NISC) や関係府省、電気通信事業者等と連携して、様々な角度から、情報セキュリティ脅威の分析や対策の検討を実施しています。

最後に

総務省は、普段の生活に身近な、かつ、幅広く多種多様な分野の業務を担っており、どの業務も興味が尽きることはありません。少しでも関心を持った方は、是非、総務省の門を叩いてみてください。きっと、あなたにぴったりの仕事に出会えると思いますよ。

情報通信行政マンとして



総務省の正面にて Part2

松元 信貴

情報通信政策局衛星放送課

PROFILE

- 平成14年4月 総務省採用
総務省情報通信政策局総務課
- 平成16年4月 総務省情報通信政策局総合政策課
- 平成19年7月 現職

平成14年に入省した松元信貴と申します。皆さん、どのような気持ちで就職活動をしていますでしょうか？ 私が入省してから少し時間がたってしまいましたが、今思えば、就職活動を必死になってやっていた頃が懐かしく思えます。この冊子を読んでいる方は、総務省を希望しようかなあ、という気持ちがあるのでしょうかから、私がこれまでに担当してきたことについて、簡単に紹介できればと思います。

まずは情報通信審議会

確かに新聞等で「審議会」という言葉を見たことはありましたが、何を「審議」するのだろうか？ と考えた程度で特に深く考えたことはありませんでしたから、入省してまずこの担当になったことに少々驚きました。情報通信審議会の詳しい説明は総務省のHPに出ています。簡単に言うと、日本の情報通信政策について議論されているところなのです。一番下っ端の担当者でありながら、審議会の委員の方々の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。もちろんその他諸々の細かいこともやるんですけどね。

次に予算

審議会担当から約2年後、予算の関係部署に異動になりました。具体的には、情報通信政策に必要な予算(予算施策と言います。)の取りまとめ担当となり、毎日数字とにらめっこで、電卓と格闘していました。数字を1つでも間違えたら大変ですので、神経をすり減らす作業でしたが、3年の間に情報通信の予算施策にも精通し、エクセルの計算式も使いこなせるようになり、200近くある予算施策の数値の管理全般を任

されるようになりました。また、こうした中、前の審議会担当の時に議論されていた政策などが具体的な予算施策となって現れてきたりして、少しずつ行政の流れがわかってきて、行政マンとして自分がどういう役割を果たしているのか、実感できるようになってきました。

そして、衛星放送

昨年7月から衛星放送課に異動になり、衛星放送に係る許認可業務、衛星の無線局免許業務のほか、それに関連する制度整備を担当しています。これまでの部署では各課の調整や取りまとめをしていたのですが、ここで初めて事業者と直接調整したり、審議会に諮問したり、と主体的に政策を実行する側となりました。今までにない苦勞がたくさんあるものの、具体的に仕事の結果が免許や認可という形で残ることもあり、手応えを感じる仕事だと思っています。

これまでこのような感じで仕事をしてきているわけですが、いつも新たな発見があります。今回振り返ってみて、それが情報通信行政の奥の深さなのだと感じています。是非皆さんも総務省に入って、日本の情報通信政策に携わっていきませんか？

激動を楽しめる方、求ム。



執務室にて(筆者中央)

飯島 要介

総合通信基盤局電気通信事業部
事業政策課

PROFILE

平成16年4月 総務省採用
総務省情報通信政策局総務課
平成17年4月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部
料金サービス課
平成19年7月 現職

「公務員」を目指す方、お断り!

このパンフレットをお読みの国家公務員を志していると思われる皆さんに対して、いきなり衝撃的な見出しを付けてしまいましたが、これには理由があります。

一般的に「公務員」という仕事は、「前例」が重んじられます。検討・議論がなされ、一度練り上げられた考え方というのが「前例」として積み重ねられ、場合によってはその後何十年にも渡って、その「前例」がベースとなって仕事が行われていきます。

ところが、私が携わっている情報通信(テレコム)行政は、ちまたで言われているような「公務員」的な態度で仕事に臨むとすぐに息切れを起してしまうところなのです。

「十年大昔」な情報通信分野

なぜ息切れを起してしまうかについては、具体例を挙げる方が手っ取り早いでしょう。

今や、携帯電話でテレビ(ワンセグ)が見られるようになっていますが、十年前は文字どおり電話のみに利用されていました。インターネットもブロードバンドサービス(FTH(光ファイバ)・ADSL・CATV等)を利用すれば動画が見られるようになっていますが、十年前はブロードバンドサービス自体がまだなく、画像のほとんどないテキストサイトの閲覧や電子メールのやりとりが主な利用手段でした。

このように技術進歩・イノベーションがめざましい情報通信分野は「十年一昔」ならぬ「十年大昔」な分野であり、適用していた「前例」が役に立たなくなってしまうことが数多くあるのです。

「競争」を「評価」する仕事

私が現在担当している仕事は、「電気通信事業分野における競争状況の評価」というものです。

電話やブロードバンドサービスは、時代のニーズに合わせた政策の変化により、市場参入が自由となり、また、サービス事業者等により料金やサービス内容による競争が展開し、技術革新が絶えず行われた結果、老若男女問わず生活に身近で欠かせないインフラとして普及しました。これ自体は歓迎すべきことなのですが、自由に行われているゆえに、時に市場をゆがめる強力なサービス事業者等が現れ、競争が健全に機能しない場合があります。

そこで、市場の状況を適切に調査・把握することにより、競争が健全に行われているかを定期的にチェックし、各政策の判断材料の基礎とするのが「競争評価」です。普段何気なく実感として抱えている情報通信分野の変遷を実際に明確なデータとして把握できるので、取り組んでいてとても面白いです。

百聞は一見にしかず

テレコム行政では、いわゆる「公務員」ではなく、激しく変化する状況の中でアグレッシブに新しい知識を吸収しつつ、問題に取り組むことを楽しめる方が求められています。

また、「実はここにも」をキャッチフレーズにしている総務省、情報通信分野だけではなく実に幅広い業務に携わることができます。この文章を読んで少しでも興味を持っていただけた方、是非一度総務省に足を運んでみてください!



友人とスキー旅行(筆者後列左から2番目)

ここで出会えたあなたに



職場の仲間とフットサルチームを結成(筆者前列中央)

鈴木 俊明

総合通信基盤局電波部電波環境課

PROFILE

平成17年4月 総務省採用(技官)
総務省総合通信基盤局
電波部電波政策課
平成19年7月 現職

今ここにある必然

この冊子を手に入れているあなたは、おそらく総務省に興味を持っている、少なくとも、何かしら総務省にベクトルを向ける動機があるのではないかと思います。それとも、想像もつかない神様の見えない右手ないし左手によって、必然的に読むことになっているのでしょうか。

いずれにせよ、この世界で毎秒那由多と生産されている文章の中から、この文章を目にすることになったことは、間違いなく偶然ではないでしょう。

私は、そんなあなたに向けて、この冊子の趣旨にのっとり、総務省の業務、とりわけ情報通信行政について、簡単にご案内差し上げようと思います。

総務省と情報通信

前述してしまいましたが、総務省は、名前からは想像しにくい情報通信行政を担当していたりします(英語名ならなんとなくわかるんですが→MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications)。

情報通信といえば、いまや生活になくてはならないツール。携帯電話で会話する、携帯ゲームで通信対戦する、オンラインショッピングする、ネット上の巨大掲示板に書き込む…みんな情報通信のたまものです。総務省は、行政の立場から、こうした情報通信をより便利に、より安全に利用できるよう、ルールを決めたり、技術開発を支援したり、事業者を監督したりしています。

コレ→

さて、中でも私が現在所属している電波環境課で担当している業務に関してですが。あなたは、どこかでこんなマークを見たことはないでしょうか。さあ…思い出してみてください…。

そう、携帯電話の電池パックをはずしたところに貼ってあったりするヤツ。これが果たして何なのか、ご存知でしょうか。

これは技適マークと呼ばれ、携帯電話等の小規模な無線局について、総務省が定める技術基準に適合している証明として貼られているものです。このマークが貼ってあることで、無線局の免許手続きが簡単になったり、そもそも免許が不要となったりするわけですが、要するに、女子高生がケータイでメールできるのも、ビジネスマンがノートPCの無線LANで仕事をできるのも、大好きなミュージシャンがワイヤレスマイクで歌えるのも、このマークが貼ってあるからなのです。

こうやって、私の関係した仕事が、巡り巡って身近な人や知らない誰かの生活の中に溶け込んでいる、これを改めて考えると、仕事に対する大きな責任を意識させられます。

いかがでしょうか

やはり、自分の仕事が目に見える形で反映されるということは、非常に充実感、やりがいを感じる事ができるものです。何かの縁でこの冊子を手に取り、この文章を最後まで読んでくださったあなたも、この国民生活に密着した総務省での仕事を、将来の選択肢のひとつとして加えてみてはいかがでしょうか。

日本の技術を世界に



南米出張にて

谷内 正登

総合通信基盤局国際部国際協力課課長補佐

PROFILE

昭和62年 4月 郵政省採用
 昭和62年 8月 郵政省大臣官房経理部管理課
 平成 元年 7月 郵政省大臣官房経理部監査課
 平成 2年 3月 日墨交換留学生
 平成 3年 1月 郵政省郵務局企画課
 平成 3年 6月 郵政省郵務局施設課
 平成 5年 7月 外務省経済協力局有償資金協力課
 平成 7年 7月 平塚郵便局郵便課副課長
 平成 8年 7月 東京郵政局郵務部管理課郵便指導官
 平成 9年 7月 郵政省大臣官房国際部国際協力課
 東南アジア係長
 平成11年 7月 郵政省大臣官房国際部国際政策課主査
 平成12年 5月 在ミャンマー日本国大使館二等書記官
 平成15年 7月 日本郵政公社郵便事業総本部
 平成18年11月 現職

はじめに

官庁訪問中の皆さん、こんにちは。

総合通信基盤局国際部国際協力課課長補佐の谷内(やち)と申します。

私は、旧郵政省に入省以来既に20年以上が過ぎてしまい、自分の官庁訪問がどうだったかもだいぶ忘れてしまいましたが、内定の連絡をもらった時のうれしさは今でも覚えています。

地デジ日本方式のセールス

皆さんは、既に地上デジタル放送(地デジ)でテレビを見ていますか? また、携帯でワンセグを見ていますか?

日本では、2011年にアナログ放送から地デジ放送への移行が行われますが、世界各国でもアナログ放送から地デジ放送への移行が進められています。

地デジの放送方式には、世界では、3つの方式があります。米国方式、欧州方式と日本方式と呼ばれる3方式です。

今、この3方式が世界各国への技術の売り込みを行っています。

日本方式は、一番新しい技術ですが、実用化が最後になり、現時点で、日本方式を採用しているのは、日本とブラジルのみです。

現在、日本は、南米を中心に売り込みを行っています。南米と言えば、過去の歴史からスペイン(欧州)の影響力が強く、欧州方式で決まりと思われていましたが、ブラジルが日本方式を採用したこと、また日本からの売り込み攻勢により、各国とも日本方式の技術的優位性(ワンセグ等)を認識し、各方式

を再検討するという段階まで盛り返しています。

この原稿を書いている今も翌週の南米からの関係者招待の準備を行っています。皆さんが、このパンフレットを手にする頃には、どこかの国が日本方式を採用していると思っています。

現在の仕事

私は、国際協力課では、東南アジア、中南米及び中東欧を担当しています。

これまでは政府開発援助(ODA)関係の業務が中心でしたが、総務省として取り組んでいる情報通信分野における国際競争力強化に関する業務の割合が多くなっています。

地デジ以外では、次世代IPネットワーク(NGN)とワイヤレス(携帯電話等の移动通信関係)分野における国際展開を実施しています。

総務省志望の皆さんへ

私自身は、どちらかと言うと郵政事業への関心から旧郵政省を志望し入省しました。

その後、メキシコへの留学・外務省での勤務・大使館での勤務と国際関係での仕事が多くなっています(ほとんど日本語で仕事をしているので語学力は疑問ですが)。

このように総務省は、色々な仕事を体験させてくれる職場だと思います。

このパンフレットをご覧になった皆さんは、官庁訪問時に会うであろうⅡ種採用職員から色々話を聞いていただければ、是非、働きたいと思う職場であると確信しています。

『総務省』の枠を超えた視点で



近所の神社にて

柳谷 昭夫

郵政行政局郵便課企画調査係長

PROFILE

平成 9年 4月 郵政省採用
 平成 9年 7月 郵政省放送行政局総務課
 平成11年 7月 郵政省電気通信局電気通信事業部業務課
 平成13年 7月 内閣府
 平成16年 4月 総務省情報通信政策局地域通信振興課
 地方情報課推進室監理係長
 平成17年 8月 総務省情報通信政策局
 情報通信政策課企画係長
 平成18年 8月 総務省総合通信基盤局国際部
 国際協力課地域協力係長
 平成19年 7月 総務省郵政行政局郵便企画課
 企画調査係長
 平成19年10月 現職

みなさん、はじめまして。総務省郵政行政局の柳谷と申します。平成9年に郵政省に入省してから、はや10年以上が経ちました。

現在私は郵政行政局郵便課というところに籍を置いています。郵便課は民営化後の郵便事業株式会社の業務に関する監督のほか、郵便法やそれに関連する法令・制度などを所管しているところです。私は郵政省への採用以降、放送、電気通信事業など、一貫していわゆるテレコム部局での業務を担当し、初めて郵政行政を担当する部署への配属となったのが今年の7月のことですが、その初めての年に郵政民営化を見届けることとなったのも何かの縁かもしれません。

先に書いたとおり、私はテレコム部局での業務を中心に担当し、ずっとその分野の業務に関わっていくことになるのだと漠然と思っていたことがあったのですが、採用5年目から内閣府に出向し、青少年健全育成という業務に携わったことがあります。まさか自分が他省庁に出向することになるとは思いませんでしたが、それまでの郵政省・総務省で携わってきた情報通信行政とは畑違いの分野であり、当初は戸惑うこともありましたが、国の行政事務であることに違いがあるわけではなく、日々の業務に追われるうちに自然に業務への理解を深めていくこととなりました。

また、ここでは内閣府だけでなく、様々な省庁からの出向者の方と席を並べることとなり、出身省庁によって業務に対する取組方の違いや考え方の違いなどがあることを知り、自分の狭い世界の思い込みを改めることとなったことがあります。恥ずかしながらここで初めて、これまでの「ひとつの役所の職員」である自分が、それ以前に「国の行政機関の職員」なのだという意識を持つことができたような気がします。なお、この時に知り合うこととなっ

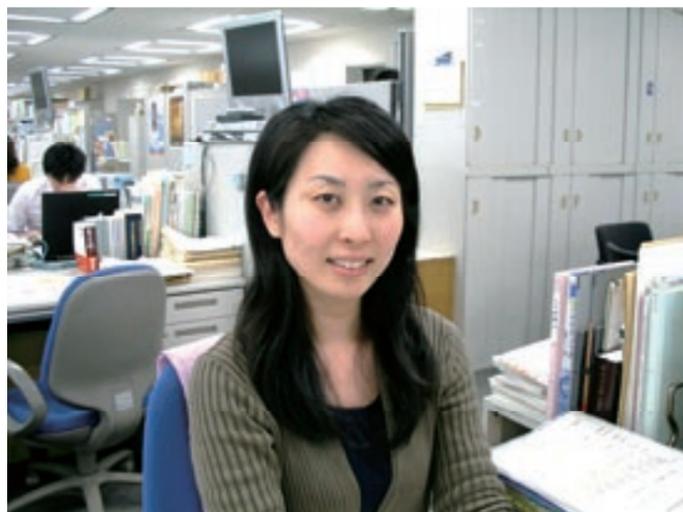
た他省庁の方々とは現在でも公私ともにおつき合いがあり、私にとってかけがえのない財産となっています。

この10年で国の行政機関が省庁再編を経て統廃合されるなど、国の枠組も日々変化する時代となっています。繰り返しになりますが、私は採用時には採用された省の枠内で仕事をするものというような認識がありましたが、他省庁への出向や省庁再編を経て、今では一つの省の枠内にとどまらない幅広い視野から自分の担当する業務を見渡せるようになったと感じています。今現在官庁訪問をされている方の中には「〇〇省でなければ」とか「絶対××省で働きたい」と、熱い思いを持たれて活動されている方も多と思います。その思いは大切だと思いますが、少々の柔軟性を持って悪くないかも知れません。

このパンフレットをご覧になっているということは総務省の業務に興味を持たれているということだと思いますが、総務省に採用されたからといって、総務省という限られた世界の中だけでずっと仕事することは今後はほぼあり得ないのではないかと思います。ですので、最初はまず先入観にとらわれず「国の行政機関で(国家公務員として)働くのだ」というようなニュートラルな気持ちで志望省庁を検討するのも1つの手です。それでもなお「私は総務省で働きたい」という方がおられれば、私も一職員として心より歓迎したいと思います。

みなさんに総務省でお会いできることを楽しみにしています。

多種多様



職場にて

大森 千尋

人事・恩給局公務員高齢対策課企画係

PROFILE

平成16年10月 総務省採用
 統計局統計基準部国際統計課
 (国際統計第一係)
 平成17年 8月 政策統括官(統計基準担当)付
 国際統計管理官付(国際統計第一担当)
 平成18年 4月 大臣官房企画課(企画調査第二係)
 平成19年10月 現職

「実はここにも総務省」、みなさんはこのキャッチフレーズを目にしたことはありますか？

このキャッチフレーズのように、総務省の業務は、幅広く多種多様であり、皆さんの生活に様々なところで関わっていると思います。

入省後、私が最初に配属されたのは、統計局統計基準部国際統計課国際統計第一係(現政策統括官(統計基準担当)付国際統計管理官付国際統計第一担当)です。国際機関等からの統計に関する照会に対応することが主な業務であり、国際機関から統計に関する照会を受けた後、照会内容に関連する各省庁等問い合わせ、必要があれば調整を行いとりまとめて回答するといったことを行います。また、この係では国際会議に初めて出席するといった貴重な経験もできました。

2つ目の配属先は、大臣官房企画課企画調査第2係でした。大臣官房企画課は、総務省の政策の企画や立案に関する総合調整等を行っています。企画調査第2係という名称からはどのような業務を担当するのか分からないと思いますが、主に省内の国際関係業務の調整を担当しており、例えば、外務省から照会を受け、省内の回答をとりまとめて回答するといったことを行います。照会の内容に合わせて省内の様々な担当と連絡・調整を行うのですが、総務省では様々な業務を行っていると感じました。

現在の配属は、人事・恩給局公務員高齢対策課企画係です。人事・恩給局は、国家公務員の人事行政に関すること等を所管しており、具体的には、国家公務員の給与、勤務時間、高齢対策等に関する業務を行っています。現在配属されている係は、高齢期にある国家公務員の人事行政等に関する業務を

担当しています。

現在の職場は、最初に配属された係および2つ目に配属された係とは全く異なる業務ですが、優しい上司、経験を積んだ先輩に囲まれ日々勉強しています。また、入省当初、上司に「仕事において何か一つ強みを持って」と言われたことは今でも覚えており、日々精進しているところです。いろいろな経験を積み様々な角度から物事を見ること、そして、詳しい分野があるということは仕事をしていく上で必ず役に立つと思います。

現在、入省してから3年が経ちましたが、様々な業務に携わることが総務省の魅力の一つであり、様々な職場で経験を積むことにより、日々成長していける職場であると思います。好奇心旺盛で、いろんなことにチャレンジしたい方にとって非常に魅力的な職場であると言えます。また、自分に向いていることを探したい方等どんな方にとっても活躍できる場があると思います。

さらに、総務省には、厳しくもあり優しい上司、様々な経験を積んだ諸先輩方、共に頑張っている同僚、また、個性豊かな方々がたくさんいます。みなさんもぜひ総務省で働いてみませんか？新しい風を運んでくれるのを楽しみにしています。

総務省で働いて思うこと



マシン室にて

鈴木 由香里

行政管理局行政情報システム企画課
情報システム管理室

PROFILE

平成17年4月 総務省採用
 関東管区行政評価局
 平成17年8月 行政管理局行政情報システム企画課
 平成19年7月 現職

私が所属する行政管理局行政情報システム企画課は、「世界一便利で効率的な電子行政」という目標の実現に向けて「業務・システム最適化」の推進等に取り組んでいます。「最適化」とは、簡単に言うと、制度面を含めて国の業務を見直し、IT技術を活用しつつ業務を効率化することです。例えば、情報システムを用いて処理されている業務であっても、制度面の改善を含めて一から見直してみると、業務の手順をもっと簡素化できるもの、複数の部局や省庁などで重複して実施している無駄なもの、外部委託して効率化できるものなど、まだまだ改善の余地があります。行政管理局では、電子政府を推進する立場から、このような視点で情報システム化すべきものは情報システム化することで経費等の無駄をなくしていくことを目指しています。

このような行政管理局で私が担当している仕事は、複数の省庁が共有して使う情報システムの企画・立案です。複数の省庁が共有して使用する情報システムの性質上、調整しなくてはならない関係者は非常に多岐にわたりますし、関係者への説明や関係者との議論も必要になります。さらに、その際には、情報システムに関する技術的な知識も必要になります。行政管理局に異動した当初は、情報システムに関する知識や経験が乏しく、非常に苦労しましたが、知識・経験が豊富な諸先輩方、上司の厳しくも温かいご指導のおかげで非常に多くの経験を積み、知識を得ることができ、今では議論の内容に意見を述べるができるまでになりました。

このように、私が担当している業務や他の方々が担当している業務が積み重なり、国の施策となる訳ですが、施策を作り上げていく様子を当事者として肌で感じることができることは、大きな魅力であると思いますし、仕事はハードですが大きなやりがい

感じています。

また、このほか、これまで私が行政管理局で担当した仕事の中には、電子政府に関する国際業務があります。海外の政府関係者が出席する会議に出席したり、会議の中で我が国としてどのような情報を発信していくか上司と相談しつつ検討を行ったり、国際機関に日本の電子行政の取組を紹介するためのコラムを作成したりと、民間企業ではなかなかできない貴重な経験をすることができました。

入省して丸3年が経ちましたが、私が担当した業務は総務省が所管する分野のほんの一部です。総務省では、非常に多岐にわたる活躍の場があり、様々な経験ができると思いますので、ぜひ総務省をもっと知っていただけたらと思います。

私の仕事は行政のお医者さん



執務室にて

松本 順

行政評価局評価監視官

PROFILE

昭和51年 4月 行政管理庁採用(国家公務員中級)
東北管区行政監察局
平成 6年 7月 行政監察局副監察官
平成 7年 8月 行政管理局副管理官
平成12年 8月 行政管理局行政情報システム企画課
課長補佐
平成14年 7月 行政評価局総括評価監視調査官
平成14年10月 行政評価局調査官
平成16年 7月 行政評価局総務課政策評価審議室長
平成18年 7月 行政評価局総務課地方業務室長
平成19年 1月 現職

私は、あなたはどんな仕事をしているのですかと尋ねられたときに、「まあ、行政のお医者さんのようなものです」という言い方をしています。国の仕事に悪いところや病んでいるところはないか、診断し処方箋を書いて改善を求めるのが、私たちの仕事です。正式名称は「行政評価・監視」といいます。医師との違いは、病人(各府省)が診察(調査)を受けに来ることはまずないので、こちらから病気がないか調べに行くということでしょうか。

手がけるテーマは毎年変わりますが、今やっているのは「契約の適正な執行に関する行政評価・監視」というテーマです。平成19年10月に福田総理の指示で急遽やることになったものです。私以下15人の体制で、平成20年1月から調査を開始しており、年内を目途に調査結果を取りまとめるべく頑張っています。

以下、このテーマをやることになった経緯と具体的な仕事の内容を説明します。

国(各府省)が、公共工事の発注、物品等の購入・賃貸借、役務の提供等を受けるために結ぶ契約件数は、1年間で約17万件(契約金額は約7.6兆円)に上っています。契約の締結は、会計法令に基づき、公正・透明で競争性を確保するよう求められていますが、残念なことに、国会やマスコミ等から様々な問題点が指摘されています。例えば、国の契約は競争入札が原則で例外的に競争性のない契約(随意契約)が認められているのに随意契約の割合が多くなっているとか、役所の天下り法人とのみ契約し民間参入を制限しているためコスト増につながっている等の指摘がなされています。

このため、最近では、各府省は平成18年1月に随意契約の総点検をし、「随意契約見直し計画」を定めて競争入札等への移行を進めてきました。しかし、それが十分でないとして、平成19年

10月末に、福田総理から、各府省における見直しの徹底、監視体制の充実強化(各府省に契約を監視する第三者機関を設置するとともに、総務省が各府省の取組を横断的に監視)をするよう指示が出されました。

仕事の中心は、各府省の契約が適正かチェックすること、すなわち、随意契約を競争入札等に移行できないか、契約相手の募集時に民間参入の制限条項を設けていないか等のチェックです。例えば、庁舎の警備や清掃業務を委託する場合、A省は競争契約なのにB省は随意契約だったら、B省は競争契約に移行できないかと考えます。応募が1社しかなくそれが民間企業でない場合、何故複数の応募者がいないのか、民間が参入できない応募条件となっていないかを調べます。このようにして調査した結果は報告書として取りまとめ、改善を要する事項については、総務大臣から関係府省の大臣に改善を勧告します。

以上が私の仕事の概略です。少しはイメージが浮かんだでしょうか? 興味が湧いた方は職場を訪ねてみてください。できれば一緒に仕事をしましょう。待っています。

総務省で経験できること



職場にて(筆者左)

田原 真人

行政評価局評価監視官付

PROFILE

平成16年4月 総務省採用
北海道管区行政評価局
平成17年4月 北海道管区行政評価局第二部
評価監視官付
平成18年4月 現職

総務省の魅力とは

—国家公務員として国の行政に携わる仕事がしたい—

しかし、一言で国家公務員といっても1府11省が分担管理する国の行政分野は多岐に渡ります。このような中で、特定の行政分野や府省の枠にとらわれることなく、横断的で幅広い仕事をする事ができる。これが「総務省」の魅力の一つといえるのではないかと思います。

この機会に、業務のPRも…

各府省は毎年度、自らの政策について、実際に成果があがっているのかどうか評価を行っています(もちろんその内容は、幅広い行政分野に関するものであることはいまでもありません)。そして、各府省が行った政策評価を点検すること。これが、私が携わっている仕事です。

自らが担当している仕事の成果を客観的に評価することは、意外と難しいものです。「自己評価は甘くなりがちである」といわれるのはこのような理由によるのかもしれませんが。このため、総務省は、各府省とは異なった第三者的な立場から、政策評価を点検し、内容におかしなものがあれば、今後の政策の企画・立案に適切に反映されるように、評価のやり直しなどを求めます。

さて、実際の業務の場において、各府省の政策評価書とにらめっこをしても始まりません。室内では絶えずどこかで検討が行われていて、各府省の政策について様々な情報、データを持ち寄り、時には激しい議論も繰り広げながら、点検活動が進められています。

多くのことを経験できる機会

さて、先ほど、総務省の魅力の一つとして、特定の行政分野

や府省の枠にとらわれない、幅広い仕事をする事ができる点を挙げました。今私が携わっている仕事も、各府省の政策全般が対象となります。そのため、幅広い政策について、実際に業務を担っている方々に対面しその実態や現在抱えている課題について話を聞く機会が多くあります。また、一緒に改善方を考えていくことも重要な業務の一つとなります。

皆さんの中には、「自分にはどういった分野の業務、職場が向いているのだろうか?」と頭を悩ませている方も多いのではないかと思います。もしかしたらその答えは、実際に経験してみないと解らないものなのかもしれません。

総務省は、皆さんが想像している以上に多くのことを経験できる機会があります。そして、その中から、自分にあった仕事を見つけることもできるのではないのでしょうか。

社会に数字からアプローチする仕事



職場の皆さんと(筆者は前列中央)

原嶋 美緒

統計局統計調査部消費統計課審査発表係

PROFILE

平成16年4月 総務省採用
人事・恩給局労働係 併任 国際係
平成18年4月 現職

現在の業務

入省してから4年目、2か所目の配属先である統計局では、総務省が毎月公表している「家計調査」の結果の審査、公表に携わっています。「家計調査」を簡単に説明しますと、世帯が得る収入と、その収入から行われる消費と貯蓄の動向を調べる調査で、その結果は経済指標として政府や民間企業等で利用され、また、行政上の施策や白書での分析に利用されています。

現在の業務を一言で言えば、集計したデータを利用者へと提供することです。提供する集計結果は誤りがないことが前提であるため、数字のチェックは入念に行われますし、なぜそのような結果になったのかという分析も行うため、近視的な視点と鳥瞰的な視点との両方を持って、数字と向き合う姿勢が必要となります。

また、統計調査では、調査対象となった方々はもちろん、実際に調査に携わる調査員の方々など多くの方が調査に携わっています。私は現在、国家公務員として統計調査の制度設計に関わっているわけですが、こういった多くの人々の「協力」によって調査が成り立っていることを実感しています。

研修制度

統計局では、時代の変化にあわせ、例えば集計方法の改善などを行っています。こういった業務を行うにあたっては、ある程度の統計に関する知識が必要となりますが、私にとって「統計」は学生時代に学んだ分野とも異なるため、専門知識を持った上司、先輩から学ぶことは多く、日々が勉強です。必要性から、また、現場で学ぶだけではなく、統計に関する専門的な知識を身につける研修制度もあります。私は昨年、統計の基礎から応用ま

での知識を総合的に習得することを目的とした、3ヶ月間の研修に参加しました。この研修は、統計研修所という専門機関で行われたのですが、研修に専念できる環境で、統計に関する内容を広範囲に学べたことは、私のような基礎を学んでいない者にとって今後統計業務を行う上で有意義な経験でした。また、今までは経済指標としての統計の役割のみを見ていましたが、例えばマーケティングや品質管理に用いたりする「統計」の汎用性を知り、研修後はさらに興味を持って仕事に取り組んでいけるようになりました。

公務員を志望されるみなさんへ

公務員を志望される理由は、人によって様々だと思います。総務省は、「実はここにも総務省」のキャッチフレーズが示すとおり、多岐にわたる業務内容を所管する官庁であり、また、ゼネラリストとしても、スペシャリストとしても、それぞれに活躍する場があります。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ官庁訪問をしてみてください。みなさんが総務省に入省され、様々な場所で活躍されることを期待しています。

「経済センサス」って何??



職場にて

高野 義幸

統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係長 併任 企画係長

PROFILE

平成 9年4月 総務庁採用
統計局統計調査部国勢統計課指導係
平成13年1月 総務省統計局統計調査部国勢統計課指導係
平成13年4月 総務課地方経理係
平成16年4月 東京行政評価事務所行政相談課業務係長
平成18年4月 統計局統計調査部経済基本構造統計課調整係長
平成19年4月 現職

皆さん、こんにちは。総務省統計局の高野と申します。自分の働きたい省庁ややってみたい仕事は見つかりましたか? そんなことを言われても、自分自身も学生時代に明確な目標を持つことは難しかったので大変だとは思いますが、今回このような機会をいただいたのも何かの縁なので、現在の仕事について述べたいと思います。あまり面白みがない文章だとは思いますが、何かのきっかけになれば幸いです。

「統計局」という名前を聞いてもなじみが薄いと思いますが、一言でいうと各種の統計調査を実施しているところです。例えば、失業率といえば「労働力調査」、消費者物価指数といえば「小売物価統計調査」という統計局が実施した調査結果が意外と世の中で使われています。その中でも特に「国勢調査」は統計調査の中で一番有名な調査であり、名前を聞いたことがある人も多いと思います。それに対して「経済センサス」??と聞いても何のことかピンとこないでしょう。

「経済センサス」とは平成21年から新たにスタートする新しい統計調査で、すべての事業所や企業を調査する経済版の国勢調査なのです。

現在の仕事は、この新しく立ち上がる「経済センサス」という調査の準備に携わっています。具体的には、「調査を行うためにはどのような調査方法がよいか」「具体的にどのような事項を調査するのか」という企画立案や関係省庁や都道府県との調整や連絡などを行っています。特に都道府県や市町村の職員の人と協力して調査を実施しなくてはならないので、全国各地に出張に行ったりすることもあります。

初めての調査であり、全国すべての事業所や企業を対象に行うという大規模な調査なので、検討が思うように進まず大変と

感じることも非常に多いのですが、その分目標を達成したときの充実感ややりがいもあります。

最近のニュースを見ると公務員に対するイメージも悪く、公務員を目指す理由が見出しにくいかもしれませんが、もしこの文章を読んで少しでも興味を持たれた人がいれば、是非お待ちしております!

名は体を表すと申しますが……



職場にて

町田 弘之

関東管区行政評価局第一部
評価監視調査官

PROFILE

- 昭和59年 4月 行政管理庁採用(国家公務員中級)
関東管区行政監察局
- 平成 5年 4月 関東管区行政監察局総務部
総務課会計第一係長
- 平成 6年 3月 栃木行政監察事務所
行政相談課業務係長
- 平成 9年 4月 関東管区行政監察局総務部
総務課調整係長
- 平成11年 4月 行政監察局副監察官
- 平成13年 1月 行政評価局評価監視調査官
- 平成14年 4月 行政評価局総務課審査係長
- 平成16年 4月 行政評価局評価監視調査官
- 平成17年 4月 現職

こんにちは! 国家公務員を目指す前途洋々の皆様は、様々な国の機関の仕事について問われた時に、例えば、財務省といえば予算、国土交通省といえば道路、空港や鉄道というふうイメージをすぐに湧かせることができるでしょう。総務省についても、他の省庁には属さない、いろいろな仕事をやっているのだろう……というぐらいは想像がつかますよね。しかし、総務省「行政評価局」となると、耳慣れない言葉かもしれません(「ぎょうせいひょうかきよく」って言いにくい言葉ですよ。私は3回続けては言えません)。行政評価局の主な業務は、①政策評価、②行政評価・監視、③行政相談、④独立行政法人評価とパンフレットに記載されていますが、これだけではイメージが湧かないので、私の経験を踏まえて簡単に説明します。

ベルリンの壁が崩壊して以降、社会の仕組みや価値観等様々なものに変化が生じ、日本においても、土地神話の崩壊や安全神話の崩壊……などと情勢がめまぐるしく変化しています。これらに対応するためには、行政も絶えず見直し、改革を行う必要があります。行政評価局は、政府内部で第3者の立場に立って行政の「見直し(評価)」を行うための専門機関なのです。

では具体的にどんな仕事をしているのか、私の所属(管区行政評価局)と担当(①政策評価と②行政評価・監視の実態把握等)で説明しましょう。

政策評価や行政評価・監視とは、一言で言えば国の行政機関の業務の実施状況を調査・分析・評価し、改善を推進するものです。国の行政の企画・立案は中央省庁で行われていますが、それらの実施は各地域で行われるわけですから、中央省庁だけを調べて国の行政を語ることはできません。そのため全国の管区行政評価局・行政評価事務所が、地域における国の行政の実態把握のための調査等を行っています。取り扱う調査テーマは原則4か月ごとに変わり、分野も多岐に渡るため、行政の色々

な面を見ることができます。また、国の行政は国民の皆様や様々な機関に関係してきますので、調査は国の行政機関だけではなく、地方公共団体、民間団体など様々な場所に実際に出向きます。例えば、アクアラインを海から見たり、生ゴミのリサイクル施設(これが意外や意外、臭くないのです。)に出向いたりしました。このように、時として一般の方がなかなか見たり入ったりすることができないところを調査することもあるわけですから、とびきりの経験ができ、見聞を広めることができます(私はこのような点に魅力を感じ、入省を決断しました。)。ですから、逆に、デスクワークだけがしたい、一つの分野についてスペシャリストになりたいという人には向いていないかもしれません。

また、調査を担当した者自身が、自ら調査した結果に基づいて、自らの責任で報告書を取りまとめるので、職員一人ひとりに与えられた裁量が大きく、上司と言えども絶対ではありません(この点も私が当局を選んだポイントの一つです。)

最後に、行政評価局の仕事は、文章ではなかなかイメージが湧かないかと思うので、ぜひ、訪問されて実際に話を聞くことをお勧めします。

国民に伝える力を求め。



広報媒体に囲まれて

宮原 和彦

福井行政評価事務所行政相談課
行政相談官

PROFILE

- 平成12年 4月 総務庁採用
近畿管区行政監察局
- 平成13年 4月 和歌山行政評価事務所
評価監視官付
- 平成15年 4月 奈良行政評価事務所評価監視官付
- 平成15年10月 奈良行政評価事務所評価監視調査官
- 平成17年 4月 近畿管区行政評価局第二部
評価監視調査官
- 平成18年 4月 現職

公務員をめざすみなさんはじめまして。

私は、平成12年に総務庁近畿管区行政監察局(現総務省近畿管区行政評価局)に採用され、現在は福井行政評価事務所行政相談課で行政相談業務に携わっています。まだ行政相談業務に携わって2年と経験は浅いのですが、行政相談について仕事的一端でも知っていただければと思います。

さて、行政相談と聞いて、どういう仕事をイメージしましたか。

おそらくクエスチョンマークではないでしょうか。恥ずかしながら私もみなさんと同じように官庁訪問をしているとき、行政評価・監視にしか関心がなく、全くイメージできませんでした。

総務省のパンフレットでは、行政相談とは、国の行政活動全般についての苦情や意見・要望を受け付けて、公正・中立の立場から関係行政機関などに働きかけて、その解決や実現を促進することと説明されています。

しかし、この説明ではやはりイメージできないと思いますので、実際に私が受けた相談を例に挙げて説明します。

相談分野の中でも一番多いのが道路に関する相談です。例えば、「いつも通勤で通っている国道の一部に穴があいていて危険なので直してほしい」という相談を受けた場合、まず、働きかける関係行政機関を調べます。この場合は国道の道路管理者であり、国土交通省の国道事務所になります。そして、できるだけ現地に足を運んで破損の程度を確認し、国道事務所に対して該当箇所を補修するように働きかけます。補修が完了すれば、相談を寄せた方にも、その旨を連絡し完了します。

これは簡単な例なので、実際にはもっと複雑な相談、国ではなく都道府県や市町村の行政活動に関する相談や金銭トラブル等民事に関する相談なども寄せられます。こういった相談を受けた場合には基本的にはそれぞれの専門窓口を案内します(たらい回しと怒られることもあります)が、どの分野の相談であってもそ

の都度勉強してその分野の知識を蓄積しなければいけないので、相談を受けるたびに幅広い知識が身につきます。自らの資質の向上につながる点はやりがいを感じます。

しかし、近年は寄せられる相談件数が減少しており、もちろん行政運営の改善が進み苦情・意見が減ったのであればいいことなのですが、実際には相談窓口を知らなかったり、役所の敷居の高さや雰囲気への足を踏むなど、まだまだ相談をしたい方は潜在的には多くいるのではないかと思います。

これからの行政相談は、相談を受けるという「静」の姿勢から、相談を見つけ出す「動」の姿勢への転換が求められており、国民のみなさんにいかに行政相談という機能を知ってもらうかが課題となってきます。

このときに最も重要となるのが広報です。

下のシンボルマークを見たことはありますか。広報の一環として、導入された行政相談シンボルマークです。自分の名刺にも掲載していますが、今までに名刺を渡した人からこのマークに対して反応を示した人は、残念ながらいません。他にも街頭でティッシュやリーフレットを手渡したりといった広報活動を行っています。ほとんどの人が「行政相談って何ですか?」という反応です。

柔軟な発想力を持ち、プレゼンテーションに自信のある方、是非総務省で効果的な広報のアイデアと一緒に考えてみませんか?



行政相談シンボルマーク

変化に富んだ仕事をしてみませんか

大城 沙織
 沖縄行政評価事務所評価監視官付

PROFILE
 平成18年4月 総務省採用
 沖縄行政評価事務所
 平成19年4月 現職



ここが沖縄行政評価事務所です

はじめに

みなさん、こんにちは。私は現在、総務省の出先機関である沖縄行政評価事務所に勤務しています。平成18年度に採用され、上司や先輩に色々教えていただきながら現在は行政評価・監視業務を担当しています。

どんな業務?

行政評価事務所では基本的に、1年間を3期に分けて各期に1テーマ、年間3テーマについての行政評価・監視を行います。行政評価・監視には、全国規模で見直しを図る必要がある問題を取り上げ、全国調査網により現地調査を実施し行政運営の改善を図る「全国計画調査」と、地方支分部局が独自にその所在する地域の住民生活に密着した行政上の問題を取り上げ、調査を実施し必要な改善を図る「地域計画調査」があります。といっても、なかなかピンとこない方もいらっしゃるかもしれませんが、私が携わった地域計画調査を例に少しご紹介します。

地域計画調査の大まかな流れは、①調査計画を作成する、②計画に沿って現地調査やヒアリングを行う、③調査の結果をもとに改善措置事項について検討する、④調査対象機関に対して勧告等を行い改善を促す、マスコミへの公表、⑤改善状況の確認、となります。

私が平成19年度第2期目に携わった「国の庁舎等の利用者に係る安全・利便に関する調査」では、安全性・利便性の観点から調査計画を作成し、計画をもとにバリアフリー、窓口サービス、受動喫煙の3つの視点から県内の国の庁舎19施設について調査を行い、その結果をもとに対象機関に対して改善すべき点を通知して、改善を促しました。この調査の結果、庁舎に点字

ブロックや案内板が設置されるなど、自分の携わった仕事の成果が目に見える形でわかり、とてもやりがいのあるものでした。

職場の雰囲気

沖縄行政評価事務所は風通しが良く、若い職員にとっても働きやすい雰囲気の職場で、上司や先輩とフランクに議論をしながら仕事を進めています。また、上司は若い職員の意見も取り入れながら、色々な仕事を任せてくれます。

行政評価・監視業務は4か月ごとに調査テーマが変わり、その都度、関係法令や制度等の事前勉強が必要なため大変な面もありますが、メリハリがあり幅広い知識を身につけられる業務でもあります。ルーティンワークではなく、変化に富んだ仕事をしたい方には特にお勧めの職場だと思います。

おわりに

以上、行政評価事務所の仕事などについて駆け足で説明しましたが、少しでも興味を持っていただけたなら是非実際に官庁訪問をしてみてください。お待ちしております。



行政相談委員と打ち合わせする筆者

国民に最も近い組織で働きませんか!



執務室にて

高橋 潤一
 岡山行政評価事務所長

PROFILE
 昭和48年4月 行政管理庁採用(国家公務員中級)
 中国管区行政監察局
 平成 5年7月 行政監察局副監察官
 平成10年7月 行政監察局総括副監察官
 平成13年1月 行政評価局総括評価監視調査官
 平成13年4月 北海道管区行政評価局
 旭川行政評価分室長
 平成15年4月 島根行政評価事務所長
 平成17年4月 中部管区行政評価局総務管理官
 平成19年4月 現職

行政評価事務所は、行政運営の合理化・効率化・適正化(仕事の無駄を無くしましょう。法令に則ってきちんと仕事をしましょう。法令・制度が時代に合っていないのなら、その法令・制度自体を見直しましょう。)を進めるための仕事をしています。

「銀座四丁目で話をしよう」。これって何のことだと思いますか? 同窓会の計画でもデートのお誘いでもありません。自らの主張を、国民が集まる繁華街で、国民の注視の下、誰に恥じることもなく説明できますかということです。この言葉は、先輩から聞いたものですが、私もその後一度だけ使うことになりました。事業計画も立たないまま何十年も休眠状態の事業を今も継続中だと強弁する某省の担当補佐に対してでした。

通常、我々社会人は、自分の仕事に自信とか使命感を持っているし、また、そうでなければ困るわけです。しかし、だからといって、それにどっぷり浸かってしまって、周りが見えなくなっても困ります。最近、偽装表示をした会社の幹部が、「会社の常識は社会の非常識だった。」と述べたという報道がありました。これも同じことですね。特に国家公務員は、自分では間違いない、問題ないと思っても、最終的には社会通念に基づいて行動することが求められています。

行政評価事務所では、この社会通念というものさしをとっても大事にしています。

我々が担当する二つの大きな柱のうち、行政評価・監視業務は、各府省が設計し運営している制度等について、現場での実態を調査し、問題事例を抽出して本省に報告するものですが、問題事例となるか否かは社会通念が大きな判断要素となります。

もう一つの業務の柱、行政相談も同じです。行政相談は、国民からの苦情や要望を受け付け、中立公正な立場からその解

決を図るもので、国民のごく身近なところで苦情・要望などを受け付けている行政相談委員(総務大臣が委嘱した民間人で全国に約5,000人配置)の方々と二人三脚で業務に取り組んでいます。また、小学生などを対象に、行政がいかに身近なものかを理解してもらうための活動(出前教室の開催)も行っています。

それから、もう一つ、我々が、今、最も精力を傾けているのは、年金記録問題に政府全体で対応するため、行政評価事務所に設けられた年金記録確認第三者委員会事務室の業務です。同委員会は、保険料を間違いなく払ったのに社会保険庁に記録がない方々に年金支給の途を開くために設置されたものですが、判断の基準は、社会通念に照らし、「明らかに不合理ではなく一応確からしいこと。」とされています。我々は、申立内容を裏付けるような資料、証言の有無等を調査し、同委員会に諮っています。

以上、我々の組織が国民の感覚を最も大事にする組織だということを理解してもらえたでしょうか。皆さんの新鮮な感覚をぜひ我が組織で活かしてください。



行政相談委員自主研修会にて

総合通信局にて



職場にて

佐藤 崇之

関東総合通信局情報通信部
情報通信振興課

PROFILE

平成15年4月 総務省採用
関東総合通信局無線通信部
私設第二課
平成17年5月 同局同部陸上第一課
平成17年8月 総合通信基盤局電気通信技術
システム課番号企画室及び
同課設備係・審査係(係員研修)
平成18年7月 関東総合通信局情報通信部
情報通信振興課
平成20年4月 現職

情報通信の印象

私が就職活動をしていた6年前は、情報通信分野の技術進歩の速度がドッグイヤー(人間の7年が犬の1年に相当することから)からマウスイヤー(犬よりもさらに早く人間の18年が1年に相当することから)などといわれるほど、変化が速いといわれていた時代でした。同時に少子高齢化社会も猛烈に進んでいた時代で、経済的にも不況の真ん中でした。

そんな中、ITという言葉が先進的な魅力をはなっていたのですが、私個人としては、ITとは無縁の文科系の学部を卒業していたため、「少し毛色が違うかな…」といった印象でした。実際、恥ずかしながらも情報通信技術や法令といったことに関しては全くの無知でした。

総合通信局の仕事は？

総合通信局は、総務省所管業務の内、情報通信分野を所掌する地方支分部局のことです。政府の方針で取り決められた施策等を忠実に執行する役目を担いながら、実行していく課程で出てきた課題等を次なる政策へフィードバックしていく行政サイクルの一部を担っています。

本省との業務内容での違いは、多岐に渡りますが、大きく異なる点は「現場に近い」といったところではないでしょうか。冒頭で述べたように情報通信技術や法令に無知であった私(現在も勉強中です。)も、諸先輩方のアドバイスを受けながら、業務を行うことで、自らが行った業務の影響が生活に近い現場で感じられるという総合通信局での仕事の魅力を感じながら日々取り組んでいます。

研修制度は？

総合通信局は、比較的研修を受けやすい環境にあります。や

る気がある人(業務との兼ね合いもありますが)ならば、年に数回は研修所での研修を受けることができます。その他も、職員全員が受ける研修が設けられるケースがあります。また、採用されて3年目になると、本省の業務内容を体験するため、約1年の研修が行われています。その後、本省勤務を希望し、諸条件が合致すれば、本省勤務への道も開かれています。

現在の仕事

一言でいうと、「補助金を使って地域の情報化の手助けをする。」ことです。現在の自治体は、高齢化が進むことで医療費を初めとして様々な負担が年々重くなっています。そういった中で、教育、安全・安心、防災等の点から、情報通信が将来果たすべき役割の必要性を説きながらお手伝いをさせていただくことにやりがいと責任を感じています。

職業選択

職業選択の個人的な基準としては、①広い視野を持って、②多くの人へサービスを行え、③縁の下の力持ちであり、④職場の人間が魅力的である、等といった点から国家公務員を選択したことを覚えています。おそらくこの原稿を読んでいる方の中にも遠からず当てはまる方もいらっしゃるかと思います。

結果的にお世話になっているIT官庁の組織である総務省関東総合通信局への採用は、そういった諸々の事情もありますが、ひとこというと「縁」であったと思います。

皆さんもご縁がありましたら、是非、官庁訪問にいらっしゃってください。

北の大地北海道から



職場にて(筆者後列右から3人目)

石原 誠一

北海道総合通信局情報通信部放送課長

PROFILE

平成 4年 4月 郵政省採用
平成 4年 7月 郵政省電気通信局電気通信事業部
データ通信課
平成 7年 7月 郵政省電気通信局総務課
平成 9年 7月 郵政省大臣官房総務課審議室
平成11年 7月 勝浦郵便局総務課長
平成12年 7月 内閣法制局第三部参事官付
平成15年 4月 日本郵政公社総務部門総務部
法務係長・総括担当マネージャー
平成16年 7月 総務省情報通信政策局総務課法規係長
平成18年12月 総務省情報通信政策局放送政策課
事業振興係長
平成19年 7月 現職

自己紹介

平成19年7月17日に拝命し、北海道総合通信局放送課長をしております、石原です。

西暦2000年を迎えようとする頃、20代最後の年に千葉県勝浦市の勝浦郵便局総務課長を拝命して以来、2度目の東京以外での勤務、いわゆる地方での勤務をしているということになります。その頃との大きな違いというのは、当時はまだ省庁再編前でありまして、郵便局が郵政省の地方支分部局であったこと、私自身がまだ独身であったことでしょうか。私の妻は、東京での勤務があるため、いわゆる単身赴任族として生活し、初めての北の大地で冬を経験しました。

北海道総合通信局の放送課長とは、少々長くなりますが、ラジオ・テレビなどの放送局に係る有線・無線の施設の設置及び使用の規律と放送業の発達、改善及び調整等、決められた電波利用のルールに則り、いわゆるアンパイヤーをしながら、北海道内において、ラジオ・テレビが効果的に普及・浸透するための取り組み(発達、改善、調整)を、総合通信局関係職員とともに、放送事業者、新聞ほかのマスコミ、自治体ほか様々な関係団体・関係者と連携しながら進める担当課の長ということです。そして、日々動いているラジオ・テレビ業界ほかマスコミと相対しつつ、広大な北の大地における各地域の実情を考慮しながら業務を進めています。

日本の国土の約22%を占めている北海道では、電波伝搬上の特徴、地域の事情などから、札幌と函館でもそうですが、道北方面の稚内、道東方面の網走、根室、釧路、帯広でも、聴取できるラジオ局、視聴することができるテレビのチャンネルが、各地域でそれぞれ異なっているというのが、特徴となっています。

東京とは異なるステージ!

国家公務員になって15年が経過しました。東京での業務も日々張りのある生活をしていましたが、今は、東京とはまったく異なる気候、風土、社会経済事情の中で、地上デジタル放送の推進など全国的な政策課題の推進とともに、北海道独特の政策課題を踏まえて業務に取り組んでいます。また、素晴らしい9人の職員との出会いに恵まれて、課長として率先垂範と深謀遠慮の両面から責任感と目的意識を持ちつつ職員のみなさんと共通の目的に向かって業務を進めていく機会を得たことで、国家公務員としてだけでなく、一社会人としても様々な局面・人々と出会うことができている。38歳になりましたが、ますます自分を磨いていく機会を得ていることに、感謝する毎日です。

おわりに

私が国家公務員として歩み始めた1992年当時と比べると、郵政省が総務省に変わるなどの変化の中で、同期入省の仲間もそれぞれの分野、そして国の内外で活躍しています。今、私のメッセージを読んでいる方々は、就職という人生の大きなポイントに立たれているところですから、このメッセージから、総務省で頑張ってみようと思う人が一人でも出てきてくれることになればうれしく思いますし、近い将来一緒に仕事ができることを楽しみにしています。頑張ってください。

「意外」と身近な——「総合通信局」



旅行(筆者右から2人目)

半明 忠幸

中国総合通信局放送部放送課
(デジタル放送普及担当)

PROFILE

平成16年4月 総務省採用(技官)中国総合通信局
放送部放送課テレビジョン担当
平成18年8月 総務省情報通信政策局
地域通信振興課地方情報化推進室
振興係(係員研修)
平成19年8月 現職

「総合通信局」って何するところ?

みなさん、はじめまして。みなさんは「総合通信局」が何をしている機関がご存じでしょうか? 実は「総合通信局」はテレビや携帯電話、インターネットなど日常目にするICTに関する様々なことをやっている「意外」と(?)身近な機関なのです。ここでは「総合通信局」の業務の中で私が担当している放送関係の話を中心に総合通信局の魅力について書いていきたいと思います。

「地デジ」

テレビのコマーシャルでもおなじみの「地デジ」。もう皆さんご存知ですよね? この「地デジ」への移行をやっているのも総務省なんです! 簡単に言えば現在の「地上波テレビ放送」をアナログからデジタルへ変える——ということなのですが、なぜこんなに大変なことなのでしょう?

今、身の回りではレコードがCDに、ビデオがDVDにと様々なモノがデジタル化されています。その中、アナログでずっと頑張ってきたモノ——それが「テレビ」なのです。

今日、これほど国民生活に根ざしたアナログテレビを2011年7月24日までに全てデジタル化するので、どれだけ大変な事業なのか容易に想像していただけたと思います。こんなに身近な「テレビ」の大変革の瞬間に立ち会えるのも総務省職員ならではの楽しみではないでしょうか?

地方局での業務・魅力について

私は技官として地方支分部局である中国総合通信局に採用されて4年目になります。ここでは地方局の魅力について私なりに思ったことを書きたいと思います。

本省では主に国全体に関わる業務を行っています。(法令改正や予算要求等)私の所属する地方局ではそういった業務は基本的には行いません。では地方局では何をやっているのかというと、本省で作られた法令や予算に基づいて許認可等の業務を行っています——というと一見簡単そうに聞こえるかもしれませんが、実はそう簡単でもありません。

日本で一番大きな放送局である皆さんご存じの「東京タワー」を例にとってみると、「東京タワー」はたった1局で、私達が担当している中国地方全ての世帯よりはるかに多くの世帯へ放送を届けています。逆にたった数世帯に放送を届けるために置局される放送局もあります。それぞれの地方局が地域事情の違いにあわせて様々な独自のアイデアを出しながら業務を行うこと——これが本省にはない地方局の大きな役割の1つであり、また地方局の魅力なのではないかと思っています。

最後に

長々と書いてしまいましたが、皆さんにとって職場環境も気になっているところなのではないでしょうか? 総合通信局では、事務官・技官の区別がほとんどありません。事務官の方が放送課にいたり、技官の方が総務課にいたり——みなさんそれぞれの部署で活躍されています。是非、官庁訪問にお越しください。そして一緒に働ける日を心待ちにしています!



仕事風景

現場力



森各務原市長と筆者

小鍋 泰弘

各務原市都市戦略部企画財政総室
財政課長

PROFILE

平成 9年4月 自治省採用
自治省行政局市町村課行政体制整備室
平成11年4月 京都府地方課
平成13年1月 総務省自治行政局地域振興課
平成15年1月 総務省大臣官房秘書課秘書第四係長
平成16年1月 総務省自治財政局財政課制度係長
平成18年4月 総務省自治財政局地方債課資金係長
平成19年4月 現職

「ちょっと現場に行ってみますか」

私の最近の口癖になってきました。

現場には、様々な事象が発生し、悩みや喜びや悲しみの感情があって、一生懸命頑張っている人がいます。そして、そこには「体温」があります。

この「体温」を感じる、これが私の「現場」です。

皆さん、はじめまして。平成9年度に自治省に入省した小鍋と申します。入省して11年目にあたる平成19年4月から、岐阜県各務原市で財政課長の職を与えられ、気概ある市役所の皆さんに支えられ、いや、むしろ引っ張られながら、日々奮闘しております。

各務原市は、人口15万人を擁し、県都である岐阜市や愛知県に隣接するなど交通の要衝でもあり、都市力と自然力がバランスよく発揮された美しい都市です。私はこの都市でいろいろな「体温」に接してきました。

未来を担う中学生に市の財政状況を知ってもらおうと、中学校の教壇にも立ちました。彼らの真剣な瞳からは希望を感じました。

地域の会合の場で、時を忘れるほど熱心に、そして誇らしげに郷土の歴史を語るお年寄りに、地域力の原点を見つけました。

議会の場で、熱心に質問してくる議員に対し、何度も何度も誠心誠意答弁させていただきました。地方自治の熱さを感じました。

福祉施設で障害を持った子ども達が、食事をするにも一生懸命に、本当に一生懸命にスプーンを動かしている時、ふと私に微笑んでくれました。心の底から彼らを尊敬し、そして感謝し、涙が溢れてきました。

この「体温」。この大切な「体温」を国に伝えること。これが総務省の仕事です。

ご承知のとおり、この国のかたちは、国・都道府県・市町村の3

層構造になっています。私が現在勤務している市町村は、行政の最前線であり、そして住民の「体温」が最も感じられる場所でもあります。

総務省の醍醐味は、私のように市町村も含め、国・都道府県・市町村のすべてに勤務する機会を与えてくれることです。私たち総務省職員は、この「体温」を、「現場力」として国の政策に反映させられることができます。地方を知れば知るほど、机上の空論では解決できない事柄を理解し、無責任な評論をしている時間もないと理解します。私たちはこの「現場力」を持っています。

是非、皆さんも私たちの輪に入って、この「体温」を一緒に感じてみませんか? 「現場力」を試してみませんか? まだまだこの話の続きがあります。是非総務省で話させてください!



各務原市自慢の航空宇宙科学博物館を息子と楽しむ筆者

一緒に魅力発掘しませんか？



執務室にて

瀬川 紀子

岐阜県総合企画部市町村課

PROFILE

平成17年10月 総務省採用
総務省大臣官房秘書課
平成18年 4月 総務省自治行政局公務員部福利課
平成19年 4月 現職

皆さん、はじめまして。平成17年10月入省の瀬川と申します。説明会や官庁訪問を控えてドキドキしている頃でしょうか。数ある省庁の中からどうして総務省のパンフレットを手にとってくださったのでしょうか。「〇〇がやりたい!」とか「友達につられて…」とか理由は色々と思いますが、入省して2年間半の経験を通じて私が感じた総務省の魅力をお伝えしたいと思います。

私は入省してから半年間、幹部のスケジュール管理や来客対応などの秘書業務をしていました。市町村合併に興味をもち入省した私は、秘書業務に最初はとまどいも感じましたが、幹部が仕事をしやすいように、電話対応などでは総務省の顔として恥ずかしくないように心がけて仕事をしていました。

平成18年4月には公務員部の福利課に異動になりました。福利課は地方公務員が加入する地方公務員共済組合に関する制度の企画や関連する法令を所管している課です。初めて他省からの調査に回答する時には、自分の回答が日本の社会保障制度に繋がっていくんだと、スケールの大きさに胸が熱くなりました。優しく厳しい上司と熱い先輩方に恵まれ、課題に直面したら皆が一丸となって頑張るといふ、総務省の魅力を感じられた1年間でした。

平成19年4月に岐阜県市町村課に出向になり、もうすぐ1年が経とうとしています。私は企画担当の一員として、合併市町の支援に関する仕事、具体的には、合併市町の新しいまちづくりを支援するために県から市町へ交付する交付金と、総務省所管の補助金に関する事務を担当しています。交付金は税金ですから無駄がないように事前にしっかりチェックする必要があります。交付金の補助を受けた事業が完了したら検査に行き、再びしっかりチェックをします。県の仕事は1人あたりの責任が重く、気が引き締まる思いです。

岐阜県では、平成15年から平成の大合併で市町村数が99から42(21市19町2村)へと大きく減少しました。昨年、いくつかの合併市町で合併後のまちづくりについてお話を伺ったのですが、合併というのは行財政のスリム化や住民サービスの向上など良い面ばかりではなく、地域格差の拡大や住民の意見が行政に反映されにくくなるなどの課題も多いということを実感しました。

東京で書類を見ているだけではわからないことが、県の職員として地方行政を通じて肌で感じられる…国の機関であるけれど地方のために働けるということもまた総務省の大きな魅力の一つです。

総務省の魅力の一端が伝わったでしょうか? でも、まだまだ私も知らない魅力が沢山あるはず。皆さんと一緒に新たな魅力を発掘できる日を楽しみにしています!



高山の古い町並を散策中の筆者

北の国から'08



職場にて

岡本 理恵

北海道企画振興部地域振興・計画局市町村課

PROFILE

平成17年10月 総務省採用
総務省自治行政局選挙部選挙課
平成19年 4月 現職

私は今、北海道企画振興部地域振興・計画局市町村課市町村財政健全化支援室財政グループに勤務しております。総務省に入省して早2年半。この間私が経験し、感じたことを皆さんにお伝えしたいと思います。

選挙課

平成17年10月に総務省に入省して、私が配属されたのは自治行政局選挙部選挙課でした。選挙課では、一般の方やマスコミ、国会議員、地方議員、都道府県選管等様々な方からの選挙に関する質疑応答が主な仕事でした。選挙課は公職選挙法を所管しており、当該法律の改正等を担当しているのはもちろん、その法解釈についても責任を持って答えなければなりません。それゆえ非常に慎重な発言を求められます。自分の発言の影響力の大きさに1年経っても緊張の連続でした。しかし、この緊張感こそが国家機関で働く上で常に意識しておかなければいけないことなんだと身に染みて感じました。

北海道!

そして平成19年4月からは、北海道企画振興部地域振興・計画局市町村課市町村財政健全化支援室財政グループに勤務しております。財政グループでの主な仕事は、起債事務です。北海道の市町村はご存じの通り、現在非常に厳しい財政状況にあります。今この現場で市町村の生の声を聞きながら仕事ができるのは貴重な経験だと思いつつ日々仕事に従事しております。

道庁に来て感じたことは、仕事をする上で自分の裁量が入る余地が多分にあるということです。さらに市町村になると、自らのまちの運営を実際に決めていかなければならないまにその現場にいるわけで、ますますその裁量は大きくなるのだらうと思われま。国での仕事の仕方、地方での仕事の仕方が地方勤務を

通じて感覚的に分かりました。そして、私たち総務省職員はその両方の視点を日々の業務に生かしていかなければならないのだと感じました。

もちろんせっかく北海道に来て仕事ばかりしているわけではありません。北海道に来てからというもの、観光旅行では分からないたくさんの北海道の魅力に触れています。特に印象に残っているのは、十勝地方の新得町という所で体験したラフティングです! そして、北海道ではよく野外でバーベキューをします。外で道産食材を色々焼いて食べるとそれはもう最高に美味です!

最後に

国の立場で働くということは、ジェネラリストであるとともにスペシャリストでなくてはいけないと以前上司に言われたことがあります。総務省では、地方勤務など様々な経験を通してジェネラリストとしての要素を、また国の職員としてのプロ意識を持つことでスペシャリストとしての要素を培うことができます。あなたも総務省で自分の可能性を広げ、そして、日本の未来のために働いてみませんか?



釧路和商市場で勝手丼



奥尻島のなべつる岩(筆者右側)

4年目の夏に思うこと



NHK大河ドラマ篤姫ロケにエキストラとして参加(筆者左)

篠田 恵二

鹿児島県総務部市町村課

PROFILE

平成17年4月 総務省採用
 総務省大臣官房秘書課
 平成18年4月 総務省自治税務局固定資産税課
 平成19年4月 現職

学生時代に区立図書館や、区選挙管理委員会でアルバイトをしたことがきっかけで地方自治に関係する仕事に携わりたいと思うようになり、実際に総務省に入省して3年が経ちました。

受験生のみなさま、暑い中、官庁訪問お疲れさまです。私が官庁訪問をしたのは平成16年ですが、そのときも連日非常に日差しが強く、面接控室に着いたときには汗びっしょりになってしまったのをよく覚えています。私が地方自治に関係する仕事に就きたくなった理由は先述したとおりですが、その中でも総務省を選ぶ決め手となったのは、官庁訪問において、多くの魅力的な職員の方々と出会えたことです。実際に地方行政制度の改革のためにどのような業務を行っているか、みなさん熱く話してくださいました。私のつたない話にも耳を傾けてくれたり、ときには厳しいことを言われたりと、一受験生である私に対しても真剣に向き合い対応してくださったことが、私の総務省入省への思いを強くしました。

実際に入省してみて、私の決断は間違っていなかったようです。1年目は大臣官房秘書課で人事記録の整理や職員採用、研修業務を担当し、総務省全体の仕事の流れに触れることができました。いままさにみなさんが行っている官庁訪問にも業務として携わりました。官庁訪問をする側とされる側を経験したことになりますので、この業務には特別な思い入れがあります。2年目は自治税務局固定資産税課で、税率調査などの業務に従事しました。これらの業務が一段落着いたときには全身から充実感が湧いてくるのを覚えます。この充実感こそが、自分の原動力となっています。それをさらに満たしてくれるのが、周囲の先輩や同僚の存在です。地方分権時代を迎え、地方自治の重要性は一層高まってきています。それゆえに自分の携わる業務には大きな責任を伴います。業務上の失敗で厳しく注意されることもありますが、それその失敗の影響が、省内部にとどまらず、都道府県

や市町村全体にまで及ぶことになるかもしれないからです。ときには落ち込むこともあります。そんなときに歓談できる先輩や同僚の存在は、私の心の大きな支えとなっています。

さて、私は現在、地方自治体へ出向する機会をいただき、鹿児島県職員として、市町村課にて勤務しています。国の職員から県の職員になったわけですが、これまで国の立場からしか地方自治を眺めることができなかった自分に気がきますし、地方自治体から眺める総務省の姿は、これまでと違うものです。

鹿児島は、世界自然遺産に登録されている屋久島や亜熱帯の奄美の島々をはじめ、豊かな自然を楽しむことができます。

それでは、県庁の展望ロビーから雄大な桜島を臨みつつ、みなさんと総務省でいっしょに働く日が来ることを楽しみにしています。



奄美群島の喜界島にて

黄金のパゴダの国から



バガン遺跡にて

市川 憲史

外務省在ミャンマー日本国大使館
 二等書記官

PROFILE

平成 7年4月 郵政省採用
 平成 7年7月 郵政省大臣官房総務課審議室
 平成 9年7月 郵政省電気通信局総務課
 平成10年3月 日墨交換留学
 平成11年3月 郵政省電気通信局電気通信事業部業務課
 平成12年7月 郵政省電気通信局電波部電波環境課
 平成14年8月 総務省総合通信基盤局電波部
 移動通信課第二業務係長
 平成16年4月 総務省総合通信基盤局総務課
 電波審議係長
 平成17年4月 総務省総合通信基盤局国際部
 国際協力課情報通信支援係長
 平成18年5月 現職

自己紹介

ミンガラパー(こんにちは)。現在、私は在ミャンマー日本国大使館で勤務しています。大使館では、経済協力(いわゆるODA等)を担当する経済班に所属しており、通信・放送、郵便といった分野だけでなく、財政・金融分野や有償資金協力(円借款)も担当しています。ミャンマーでは妻、息子及び娘の4人家族で生活しており、仕事、私生活ともに充実した毎日を送っています。

ミャンマー連邦=大きな可能性を秘めた国

皆さん、「ミャンマー」と聞くと何を連想されますか。余りイメージが湧かないというのが正直なところではないでしょうか。

最近では軍事政権の強面の印象が広まってしまった感がありますが、そもそも国民の多くを敬虔な仏教徒が占める穏やかな国民性の国です。日本の約1.8倍の面積の国土に5000万人を超える人々が暮らしており、ASEAN諸国の中では面積・人口共に大きな国に分類されます。経済発展の著しい中国、インド及びASEANのちょうど間に位置する点や天然資源が豊富な点、また、安価で良質な労働力が確保できる点等から、今後の開発・発展の可能性を大いに秘めた国であると認められています。

来るべき未来に備えて種を蒔く

ミャンマーの電話やインターネットの普及率は極めて低く、統計によると世界最低水準といっても過言ではありませんが、それでも情報通信技術はこの国に大きなインパクトを与えています。昨年9月の僧侶・民衆によるデモへの武力鎮圧は世界中で報道されましたが、その際、街中の様子を報じた映像の多くはインターネットを通じて海外に送信されたものでした。また、デモが拡大する中では、あるブロガーがオピニオンリーダーの役割を果たしたことも知られています。これからも様々な出来事があるかもしれま

せんが、私は、情報通信技術がこの国をどう変えていくかを見極めたいと思っています。

現在、この国に向けられる国際社会の視線は非常に厳しく、欧米諸国は経済制裁を課していますが、日本政府は教育・保健医療分野といったミャンマー国民の民生の向上に直接役立つ案件を優先して援助を継続しています。また、政治状況等を確認しつつ、私の専門であるICT分野に関してもどのような経済協力を実施するのがこの国のためになるのかを考えながら、各種情報を収集して経済動向を分析しています。そのほか、検討中の円借款プロジェクトを状況に合わせて具体化しつつ、我が国の援助が最大限効果を発揮するよう、タイミングを見極めながらその職務に励んでいる最中です。

最後に

この文を読んでいる皆さんは、まだ総務省での勤務の具体的なイメージを持っていないかも知れませんが、このような海外勤務もあり、幅広く業務することができるのだということ、拙文ながらご理解頂ければ幸いです。照りつける強烈な日差しの下、黄金に輝くパゴダ(仏塔)の国から、夢に向けた皆さんのご健闘をお祈りします。



日本の援助で建設した学校の開校式典にて

バイクの波の中で



ハノイ・ホアンキエム湖にて

景山 真澄

外務省在ベトナム日本国大使館
二等書記官

PROFILE

平成10年4月 郵政省採用
7月 郵政省電気通信局電波部
電波利用企画室
平成12年7月 郵政省電気通信局電波部
衛星移動通信課
平成15年8月 総務省情報通信政策局
宇宙通信政策課宇宙通信調査室
平成16年7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部
消費者行政課企画係長
平成19年5月 現職

総務省に関心を持っていただいている皆さん。Xin Chao！（ベトナム語で「こんにちは」）。

私は今、在ベトナム日本国大使館で勤務しています。

ベトナムというと皆さんはどんなイメージを持っているでしょうか。食べ物おいしい？ 経済発展？ アオザイ姿の女性？ ベトナム戦争を思い浮かべる人もいるでしょう。

道路にあふれるバイク、鳴り響くクラクション、そしてどこからともなく現れる行商の女性たち。

今でこそ慣れましたが、交差点で縦横無尽に入り乱れるバイクの波と、（日本の基準から言えば）全くムダに鳴らされるクラクションの騒音に、別世界に来たと感じたものです。

ベトナムの人口は約8400万人ですが、年齢構成としては35歳以下の人口の比率が非常に高くなっています。その若さがパワーの源でもあるのでしょう。この国のポテンシャルが大きなものであることは間違いありません。

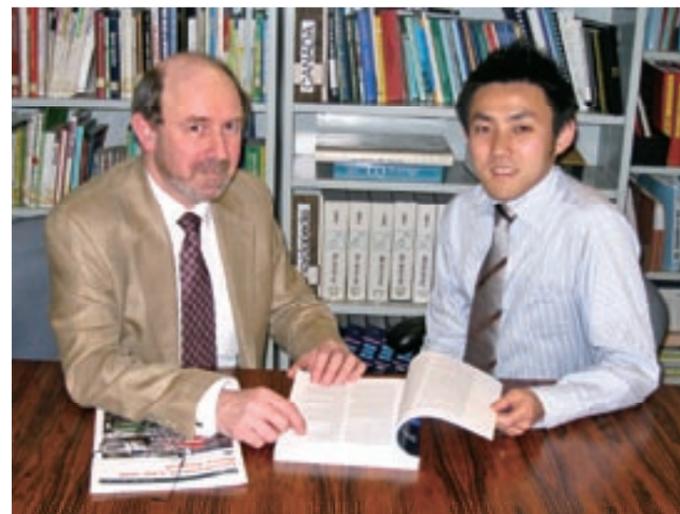
そういったことも手伝ってか、携帯の普及については目を見張るものがあります。誰も彼も携帯を常に気にしているのは日本と同じです。重要な会議中でも誰かの携帯が必ずとっていいほど鳴り出しますし、バイクの運転中でも電話が鳴れば躊躇なく話します。安全やマナーという面では良い事ではないですが、お国柄と言えばお国柄、そして裏を返せばそれほど生活に密着しているということはいえるかもしれません。

一方、通信に関するサービスや通信の品質はどうかと言えば、近年改善傾向にはあると言われますが、携帯電話は音質もあまり良くなくとぎれがちですし、繋がりにくいといった問題点もあります。通信インフラは、ベトナムの今後の経済発展

に必要な不可欠なものですし、日本が協力できる部分も多いにあると考えて、これまでのプロジェクトの状況調査や今後のプロジェクトの検討、また、ベトナム政府関係者と打ち合わせをしたり、データ収集などを行っています。

つらつらと書いてみましたが、これまで電波政策やICT分野の消費者行政を中心にやってきて入省から10年経ち、自分なりの価値観・判断基準をもってベトナムにやってきました。ですが、ここで仕事をするにあたっては、今までのやり方が通用しないこともたくさんあります。しんどいなと思いつつも、また一からというのも悪くないのかなと思っています。皆さんが、もし、総務省を将来の活躍のフィールドとして興味を持っているのであれば、専攻や過去の経験にとらわれず、ちょっと覗いてみてください。

ニューヨークから



ローカルスタッフと議論する筆者(右)

井上 秀典

自治体国際化協会ニューヨーク事務所
所長補佐

PROFILE

平成13年4月 総務省採用
総務省大臣官房会計課
平成14年4月 総務省自治財政局地方債課
平成15年4月 鹿児島県総務部地方課
平成17年4月 自治体国際化協会総務部総務課
平成19年4月 現職

はじめに

私は現在、財団法人自治体国際化協会（CLAIR）ニューヨーク事務所で働いています。就職先の候補として総務省を考えていて、このパンフレットを読まれている賢明な皆さんはもうすでにお気づきかと思いますが、総務省に採用されたからといってもずっと総務省で勤務するわけではありません。都道府県や市町村といった地方自治体や関係団体などで働く機会もあるでしょうし、日本という枠を飛び越えて海外で勤務するという機会もあるかも知れません。私のプロフィールは上記のとおりですが、入省7年で総務省、県庁、CLAIR（国内）、CLAIR（海外）という4つの異なるカテゴリー（組織）での勤務を経験させてもらい、多様な経験を積むことができています。

CLAIRとは

CLAIRは地域の国際化を推進するために地方自治体の共同組織として設立された団体で、東京に本部を置き、世界の主要7都市（ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京）に海外事務所を設置しています。海外事務所では地方自治体の海外における活動を支援し、外国における地域活性化の方策などについての情報収集・提供や調査研究を行う一方、対日理解促進を積極的に図るため、わが国の地方自治制度や地方行財政制度を中心とした諸事情を海外に紹介しています。

私の担当業務は大きく分けて2つあります。1つは地方自治体職員の海外活動に対する支援で、ニューヨーク事務所の担当地域であるアメリカとカナダで姉妹都市交流や調査研究などの活動を行う地方自治体職員に対して、訪問先へのアポイントメン

トの取り付け、出張先への同行・案内、当該地域における事情説明などを行っています。もう1つは海外事情調査で、地方自治体からの調査依頼に基づき、調査を行い、その結果を報告するというものです。この依頼調査とは別に自分でテーマを決めて、独自の調査研究も行っていきます。私は地方債課に所属していたこともあり、アメリカの地方債について調査を進めているところです。これらの業務を通じて、アメリカ、カナダの地方自治体職員等と交流し、人脈を築くことができています。これらの人脈はニューヨークで働いている間はもちろんのこと、日本に帰国してからも自分にとって最大の財産になるものだと考えています。

さいごに

もし、少しでも総務省の業務に興味があるのであれば、直接職員の話聞きに来てください。やはり自分が好きで興味を持つ分野で仕事をするのが一番だと思います。そして多くの選択肢の中から総務省を選んでいただいたなら、皆さんの斬新な発想を総務省に持ち込んで新しい風を吹き込んでください。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

総務省を目指す皆さんへ



職場にて

村本 雅昭

独立行政法人統計センター製表部
マネージャー付上級製表職(分類第1担当)

PROFILE

平成10年4月 総務庁採用
統計局統計調査部消費統計課
企画指導第1係
平成12年4月 総理府賞勲局審査官付審査第六係
併任 栄典専門職付
平成13年1月 内閣府賞勲局審査官付審査第九係
平成14年4月 国際交流振興担当主査付(政策統括官
(総合企画調整担当)付参事官(推進担当)付)
平成15年4月 国際交流第1担当主査付(政策統括官
(総合企画調整担当)付参事官(国際担当)付)
平成16年4月 独立行政法人統計センター製表部
事業企画課(分類担当)
平成16年7月 製表部事業企画課(分類第1担当)
平成17年4月 製表部事業企画課上級製表職(分類第1担当)
平成19年1月 現職

はじめに

皆さん、こんにちは。
私が総務省(旧総務庁)に入省して10年が経ちました。
当時、入省するに当たり官庁訪問で職員の方の話を聞く機会があり、今までの配属先、その部署での業務内容を何とバラエティーに富んでいたことを今でも覚えてます。
皆さんは、総務省についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。「総務」という名称から業務内容を推測することは難しいかも知れませんが、「幅広い業務」という言葉でよく表現されます。また、「実はここにも総務省」というキャッチフレーズにもあるとおり、日頃気付かないところに総務省が関わっていることもあります。

総務省の役割の大きさは、諸先輩の書かれた内容や組織図からお分かりになるかと思います。

入省してから

「幅広い業務」ということを挙げましたが、総務省では出向等により、多くの経験を積む機会があることをお話ししたいと思います。
私は入省してから、統計局で家計調査を担当し、円滑に調査が進むように各都道府県とやり取りを行ってきました。調査の内容はもちろん、各都道府県を通して調査が行われるため、どのような事務が各都道府県で発生するのか、また、調査に要する人員や経費等を理解するのに毎日が勉強でした。

その後内閣府に出向になり、賞勲局では、国土交通省から推薦のあった方々の叙勲等の審査を行いました。

また、国際交流については、「東南アジア青年の船」、「世界青年の船」の事業を行っていることでご存知の方も多いと思いますが、私は新たな事業として、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」に携わりました。日本の社会福祉等の専門分野で活躍している方を外国に派遣し、その後、派遣先となった外国の専門分野で活躍している方を日本に招聘し、お互いの現場での視察

等を通し、自国と他国での取り組みを比較できるプログラムです。この事業でコーディネーターのような業務を経験しました。

現在、独立行政法人統計センターで国勢調査の集計における品質に関する業務を担当しています。統計センターでは、調査票に記入された勤め先、仕事の内容を符号に置き換え、産業、職業に分類し集計をしています。分類する上で誤りがあれば、検査の段階で傾向をつかみフィードバックすることで、同様の誤りが少なくなり精度の高い統計となります。集計結果の迅速な提供を求められている一方、この品質を管理する業務は統計の信用に関わる重要な業務と言えます。

振り返ると、これまで異なる業務に関わってきましたが、その中で共通していることがありました。例えば、統計調査の実施や国際交流事業を企画していく上で、経費の面から要員、実施期間(日数)、事務の手順等、業務全般を把握していくことです。

異動すると、転職したのかと思うくらい全く違う業務を行うこともあります。経験を積むことで業務上問題に遭遇しても、過去に同様な問題にどう対処したのか、自分の経験を基に考えられるのではないのでしょうか。

皆さんも入省してから、法律や予算等に関わること、他省庁や都道府県の職員の方と調整しながら仕事を進めることなど様々な業務に携わることになると思います。このような業務を経験できるのは国家公務員ならではのことだと思います。

さいごに

総務省自体、幅広い業務を担っているのはもちろんですが、出向等により総務省とは別の業務を経験する機会も与えてくれます。入省後は、多くの部署をローテーションしますからキャリアアップが図れますし、活躍できる場は多方面に存在します。

総務省に興味をもっていただけでしたら是非訪問してみてください。皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

統計という仕事



職場にて

泉 良子

独立行政法人統計センター製表部
審査課(人口第5担当)

PROFILE

平成16年10月 総務省採用
統計研修所統計データセンター
統計編集第一係
平成18年10月 現職

みなさん、こんにちは。統計センターの泉良子と申します。私が官庁訪問に日々駆け回っていたのはもう4年も前になります。晴れて総務省に入省し、統計の仕事に携わってきました。統計という業務とは何か、今何をしているのか、そして私が官庁訪問したときのことなどをお話したいと思います。

身近に存在する統計

皆さんは統計についてどのくらい知っているでしょうか? 世間的にはあまり聞きなれないかもしれませんが、目立たずとも日常の影にひっそり存在しているのが統計です。例えば、去年の暮れから今年にかけて、物価の上昇が話題になりましたが、私たちは何で物価の上昇を知っているのでしょうか? 日常の買い物感覚ですか? テレビの報道ですか? 報道ではなんと行ってましたか? ここ数年で何円上がったかなんて言っていませんでしたか? そこに統計があります。統計は私たちの日常を常に計測し、記録し、それを利用してもらって公益に資しているのです。

統計センターの業務

私は現在、独立行政法人統計センターに出向しています。センターの主な業務は全国各所で調査した結果の集計・審査・表の作成等で、統計の信頼性を確保すべく1つ1つ段階を踏んだチェックや能率確保のためのプログラム開発などを行っています。私が実際に携わった社会生活基本調査(国民の暮らしぶりの把握を目的とする5年に1度の調査)の審査は、調査内容が多く細かい難しい審査業務でした。社会の傾向とずれてないか、突出して異常な数値が出ていないか目を皿のようにして数値やグラフを追う日々に、根気と忍耐が養われました。また、審査に慣れない未熟者を職場の同僚や上司が懇切丁寧に指導していただき、統計はチームワークで磨かれていくことを実感しまし

た。最後まで何か数値の誤りを見落としてないか不安がつきまとう業務ですが、結果が公表された時には安堵感と満足感、そして達成感に触れることができました。

官庁訪問を楽しんで

今の充実した日々の源には、官庁訪問での経験があるといえます。4年前の夏、連日猛暑が続く炎天下の霞ヶ関を歩き、靴先から頭まで染み渡った熱で汗に難儀し、庁舎に入った後は面接への緊張からまた違う種類の汗を流しと連日スーツの乾く間もありませんでした。そんな中、同じように面接に渡り歩いている仲間とカフェでアイスコーヒーと面接対策をする時間が楽しく、机でなく人と向かいあう新鮮さに苦勞を忘れることができました。自分が気負うことなくポジティブに面接に臨めたのもそのおかげだと思います。大変だと思いますが、人との出会いを楽しみながら官庁訪問をしてみてください。みなさんと職場で共に働ける日を楽しみにしています。



第2庁舎入口にて

総務省という選択



打ち合わせをする筆者(左)

赤坂 貴幸

公営企業金融公庫経理部資金課
資金係長兼債券第一係長兼債券第二係長

PROFILE

平成14年 4月 総務省採用
総務省自治税務局企画課
管理審査専門官付
平成15年 4月 総務省自治財政局財務調査課
平成15年10月 福井県総務部市町村課
平成17年 4月 総務省自治財政局財政課
平成19年 4月 公営企業金融公庫経理部資金課
平成20年 4月 現職

はじめに

私は、平成14年に入省して以来、自治税務局、自治財政局のほか、福井県庁での地方勤務を経験し、平成19年4月より公営企業金融公庫資金課に在籍しています。

みなさんに総務省を語れるほどの知識や経験はありませんが、日々の業務の中で私なりに感じることを中心に多少ご紹介したいと思います。

現在の業務

公営企業金融公庫とは大雑把に言うと、①債券発行を中心に民間市場から資金を調達し、②水道、交通、病院などの公営企業の財源として、地方公共団体に対して貸付をし、③地方公共団体から貸付金の回収を行う組織です。

その中で、私は債券発行による資金調達を担当しています。

日々の業務では、有利な条件で債券を発行するために、各種情報端末や銀行、証券会社の方々から、金利や債券の需給環境等の金融市場の動きについて情報収集するなど、今まで「公務員」として経験してきた世界とは、全く異なる世界に身を置いています。

現在の職場に着任するまでは、全く想像もしていなかった世界ですし、金融知識が全く無かった私にとっては、戸惑うことの連続ですが、「公務員」生活の中においては、なかなか経験することのできない貴重な機会を得たと思っています。

地方の組織へ

公営企業金融公庫は、今年10月1日をもって廃止され、地方公共団体が共同で出資する地方公営企業等金融機構へ業務が移行されます。

現在、組織移行にあたっての作業が大詰めを迎えており、通常業務以外にも様々な業務に追われています。

しかし、これまで半世紀に渡り地方の資金調達に対し重要な役割を担ってきた組織の廃止と、その役割を引き継ぐ新たな組織の立ち上げという歴史的な節目に、職員として関わっていることに、やりがいと責任を感じながら業務に取り組んでいます。

おわりに

このパンフレットを見ていただいても分かると思いますが、総務省には多種多様な職場、業務が存在しています。

総務省に少しでも興味を持っていただいた方はもちろんのこと、「公務員」としてどんな仕事をしてみたいか迷っている方、または、そもそも「公務員」として仕事をしていくべきか悩んでいる方は、是非一度、総務省を訪れてみてください。そこには実際の職場、業務が存在し、そして、何よりそこで働く「公務員」がいます。みなさんの悩みを解きほぐすきっかけがきっと見つかるはずです。

みなさん自身の肌で総務省を感じた上で、これからの選択肢のひとつに総務省を加えていただけることを期待しています。

ビバ・ハポン、ビバ・メヒコ



クラスメイトとメキシコの伝統に関する劇をやって(筆者2列目一番左)

北山 悦子

日墨交換留学生(グアダラハラ大学)

PROFILE

平成14年4月 総務省入省
平成14年8月 総務省情報通信政策局放送政策課
平成16年7月 総務省郵政行政局総務課
平成18年8月 総務省総合通信基盤局国際部
国際協力課
平成19年7月 現職

はじめまして

普段は特別意識していなかったのに、いつもとは違う状況や環境に置かれると、自分の持つ一面に自分自身で改めて驚いたり、普段真面目に考えていなかったことを考えたり考えさせられたり。そんな経験はありませんか？

私は去年の夏にメキシコに来て以来、そのような経験をするのが特に多いのですが、就職を考えられているみなさんも、未知なる環境に足を踏み入れ、その点ももしかしたら同じ思いをされているのかもしれない。

入省から現在まで

私が総務省に入省してから6年が経ちますが、最初に配属となった情報通信政策局放送政策課ではNHKに関する仕事、その次に郵政行政局総務課で郵政行政全般に携わった後、総合通信基盤局国際部国際協力課では、東南アジアや中南米諸国に対する国際協力に関する職務を担当しました。そして現在は日墨交換留学制度の下、メキシコにいます。

この制度は日本政府とメキシコ政府との間で毎年行われており、両国間の相互理解と友好親善を目的とした交換留学制度で、私はメキシコの大学で、様々な国籍、人種、年齢、職業を持つ人たちと一緒にスペイン語を勉強しています。

メキシコ

メキシコは、国土の面から言っても日本の約5倍の面積を持ち、砂漠地帯あり、ジャングルあり、有名リゾート地あり、オルメカ、マヤ、アステカなどの古代文明の遺跡あり、コロンIAL都市、大都市ありと大変魅力に富んだ国です。ちなみにメキシコでも日本

ほどではないものの、インターネットや携帯電話はかなり普及しており、多くの人がその恩恵を享受しているようです。小さな田舎町でもインターネットカフェがあり、また携帯電話を使って写真を撮ったり、音楽をダウンロードして楽しんでいる風景を見ると、情報通信の魅力は普遍的だと感じているとともに、日本に戻りましたら、ここで見たこと・学んだことを仕事に役立てていきたいと思っています。

そして総務省

とはいえ、メキシコと聞いてもあまりイメージが湧かない方も多いかと思います。総務省は多岐にわたる分野を所掌しており、省という一つの組織に所属しながらも、多様な分野に関する業務に携わることにより、様々な勉強や経験を積み、自分自身が成長できる可能性があるという点が、総務省の持つ魅力の一つと言えると思いますが、私がメキシコに留学しているのも、その一例なのだと思います。

もしかしたら今、色々な思いをされているかもしれない皆さんが、今後も多様な経験を経ながら、新鮮な気持ちで物事を考えることができれば面白いと思いませんか？

総務省の組織

内部部局

大臣官房 秘書課 総務課 会計課 企画課 政策評価広報課 管理室	人事・恩給局 総務課 公務員高齢対策課 恩給企画課 恩給審査課 恩給業務課 参事官(5)	行政管理局 企画調整課 行政情報システム企画課 管理官(8)	行政評価局 総務課 行政相談課 政策評価官 評価監視官(9)
自治行政局 行政課 市町村課 合併推進課 自治政策課 地域振興課 公務員部 公務員課 福利課 選挙部 選挙課 管理課 政治資金課	自治財政局 財政課 調整課 交付税課 地方債課 公営企業課 財務調査課	自治税務局 企画課 都道府県税課 市町村税課 固定資産税課	情報通信政策局 総務課 総合政策課 技術政策課 情報通信政策課 情報通信利用促進課 情報流通振興課 地域通信振興課 通信規格課 宇宙通信政策課 放送政策課 放送技術課 地上放送課 衛星放送課 地域放送課
総合通信基盤局 総務課 電気通信事業部 事業政策課 料金サービス課 データ通信課 電気通信技術システム課 高度通信網振興課 消費者行政課 電波部 電波政策課 基幹通信課 移動通信課 衛星移動通信課 電波環境課 国際部 国際政策課 国際経済課 国際協力課	郵政行政局 企画課 郵便課 貯金保険課 信書便事業課 検査監理官	統計局 総務課 統計情報システム課 統計調査部 調査企画課 国勢統計課 経済統計課 経済基本構造統計課 消費統計課	政策統括官 (統計基準担当) 統計企画管理官 統計審査官(3) 国際統計管理官 政策統括官 (情報通信担当)

施設等機関、地方支分部局、外局

自治大学校	情報通信政策研究所	統計研修所	管区行政評価局 北海道管区行政評価局 東北管区行政評価局 関東管区行政評価局 中部管区行政評価局 近畿管区行政評価局 中国四国管区行政評価局 四国行政評価支局 九州管区行政評価局 沖縄行政評価事務所
総合通信局 北海道総合通信局 東北総合通信局 関東総合通信局 信越総合通信局 北陸総合通信局 東海総合通信局 近畿総合通信局 中国総合通信局 四国総合通信局 九州総合通信局 沖縄総合通信事務所	公害等調整委員会 総務課 審査官(9)	消防庁 総務課 消防・救急課 予防課 国民保護・防災部 防災課 参事官	

★内部部局、施設等機関、地方支分部局及び外局を記載している。
 この他の総務省の機関には、電気通信事業紛争処理委員会等がある。

Q&A

Q 昨年のⅡ種の採用実績は？

A 本省での採用者は63人、地方局採用者は26人となっています(平成19年度Ⅱ種試験合格者からの採用者)。また、女性職員の採用にも積極的であり、多くの職員は結婚、出産後も育児休業・部分休業等を利用しながら仕事との両立を図っています。

Q 採用はどのように決定するのですか？

A 採用担当者とあなたとの面談を積み重ねて、あなたの長所、やる気、可能性などを総合的に判断して決定します。面談による人物本位の選考を行いますので、積極的に訪問していただき、あなたの魅力をアピールしてください。

Q 採用時の配属・勤務地は？

A 本省採用者は本省内の各部署や東京都内の各機関に配属されます。地方局採用者は、採用された地方局に配属されます。過去3年間のⅡ種試験合格者の採用者状況は以下のとおりです。

	本省採用者	地方局採用者	
		管区行政評価局 行政評価事務所	総合通信局 総合通信事務所
17年度	69 (15)	27 (7)	10 (2)
18年度	65 (17)	20 (7)	5 (2)
19年度	63 (16)	19 (7)	7 (1)

★人数は各年度の国家公務員採用Ⅱ種試験合格者からの採用者数
★カッコ内は女性の内数

Q 最初に配属されると、ずっとその部署で勤務するのですか？

A 配属された部署によって異なりますが、おおむね、数年に一度、別の部署へ異動することとなります。本人の希望、適性に応じ、採用地以外の勤務地へ転勤する場合があります。

Q 採用後の研修は？

A 採用時に新任者研修を行うほか、業務に関連した研修や希望者を対象とした専門研修、昇進時の研修など様々な研修があります。

Q 採用後のⅡ種のキャリアアップについて教えてください。

A Ⅱ種で本省勤務となる職員は、入省後、内部部局の課、室において、係員、係長、課長補佐等として、本人の希望や適性に応じて、主に特定分野の業務(例えば行政管理、地方自治、情報通信、統計など)を中心に担当することになります。ただし、必ずしも特定分野の業務のみではなく、大臣官房やそれ以外の業務を担当する機会もあります。また、キャリア形成の過程で、地方機関の管理職として活躍する機会や、都道府県や市町村の幹部職員等として派遣される例も多くあります。この他、他府省等への出向、海外の在外公館勤務や国内留学の機会もあります。

Q 福利厚生等はどうなっていますか？

A 総務省に採用されると、総務省共済組合に加入することになり、医療給付等を受けられるほか、全国各地にある共済施設が利用できます。また、住宅資金の貸付制度もあります。平成16年4月には、本省庁舎横に、食堂を含む新しい施設が増設され福利厚生が更に充実しました。また、宿舎に関しては、希望者には独身用や世帯用等さまざまな宿舎が用意されています。

採用情報

採用予定部署 総務本省 ※消防庁を含む

	採用窓口	連絡先
事務系	大臣官房 秘書課人事係	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館7階 03-5253-5111(代)(内線)1183, 1187, 1197 03-5253-5073・5074・5076(直)
技術系	【情報通信分野】 総合通信基盤局 電波部電波政策課	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階 03-5253-5874(直)
	【統計分野】 統計局 総務課人事係	〒162-8668 新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎 03-5273-1118(直)

採用予定部署 管区行政評価局

	採用窓口	連絡先
北海道管区行政評価局 総務課	〒060-0808 札幌市北区北八条西2丁目 札幌第1合同庁舎	011-709-1802(直)
東北管区行政評価局 総務課	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-262-7831(直)
関東管区行政評価局 総務部総務課	〒330-9717 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館	048-600-2302(直)
中部管区行政評価局 総務課	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館	052-972-7411(直)
近畿管区行政評価局 総務部総務課	〒540-8533 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館	06-6941-3431(直)
中国四国管区行政評価局 総務課	〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎第4号館	082-228-6172(直)
四国行政評価支局 総務課	〒760-0068 高松市松島町1-17-33 高松第2地方合同庁舎	087-831-3101(直)
九州管区行政評価局 総務課	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎	092-431-7081(直)
沖縄行政評価事務所 総務課	〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎	098-866-0145(直)

採用予定部署 総合通信局

	採用窓口	連絡先
北海道総合通信局 総務部総務課	〒060-8795 札幌市北区北八条西2丁目1-1 札幌第1合同庁舎	011-709-2311(代) (内線)4607
東北総合通信局 総務部総務課	〒980-8795 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-221-0606(直)
関東総合通信局 総務部総務課	〒102-8795 千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎22階	03-6238-1625(直)
信越総合通信局 総務部総務課	〒380-8795 長野市旭町1108 長野第1合同庁舎	026-234-9964(直)
北陸総合通信局 総務部総務課	〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎	076-233-4413(直)
東海総合通信局 総務部総務課	〒461-8795 名古屋市東区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館	052-971-9106(直)
近畿総合通信局 総務部総務課	〒540-8795 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館	06-6942-8507(直)
中国総合通信局 総務部総務課	〒730-8795 広島市中区東白鳥町19-36	082-222-3306(直)
四国総合通信局 総務部総務課	〒790-8795 松山市宮田町8-5	089-936-5012(直)
九州総合通信局 総務部総務課	〒860-8795 熊本市二の丸1-4	096-326-7809(直)
沖縄総合通信事務所 総務課	〒900-8795 那覇市東町26-29	098-865-2310(直)

総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)



■所在地■

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館
tel 03(5253)5111(代)

■交通アクセス■

東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞が関」駅下車 **A2** 出口徒歩1分
有楽町線「桜田門」駅下車 **4** 番出口徒歩3分
銀座線「虎ノ門」駅下車 **6** 番出口徒歩約8分

■ホームページ■

<http://www.soumu.go.jp/>